日常生活圏域ニーズ調査結果について

地域に居住する高齢者ごとの課題や多様なニーズを的確に把握・分析し、より精度の高い計画策定を行うために必要とされている「日常生活圏域ニーズ調査」を実施しました。

「日常生活圏域ニーズ調査」では、日常生活圏域ごとに高齢者の要介護リスク等の指標を把握・集計することで、高齢者の利用意向の有無を問わず、リスクの裏返しとしての潜在的なニーズの把握を含めた、より広い意味でのニーズ調査となっています。

(1)実施概要

対　象　者	本市にお住まいの要支援1～要介護2の65才以上の方　2,000人 認定を受けていない方　2,000人
調　査　期　間	平成26年6月12日～平成26年6月30日
調　査　方　法	郵送方式にて配布回収
回収件数／回収率	3,389件／84.7%　（内、有効回答3,331件／83.3%）

(2)調査項目について

本市においては、原則、国が示した日常生活圏域ニーズ調査項目にて実施しました。
ただし、必要と思われる項目を本市で独自に若干追加しています。

調査項目 【国】	①基本情報（世帯構成、疾病状況、お住まいの状況、所得の状況等） ②基本チェックリスト（介護予防事業の対象者把握を兼ねる） ③身体機能状況（運動、閉じこもり、転倒、口腔、栄養、うつ、認知症等） ④日常生活状況（ＡＤＬ（食事・排泄・入浴・移動等）、ＩＡＤＬ（買い物・洗濯・金銭管理・薬の管理等）、社会参加リスク）　など
調査項目 【市追加】	①介護保険制度について ②将来について ③行政に力を入れてほしいことについて ④認知症について ⑤支え合いについて

(3)留意点

1．百分率による集計では、回答者数を100.0%として算出し、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記します。このため、百分率の合計が100.0%とならない場合があります。

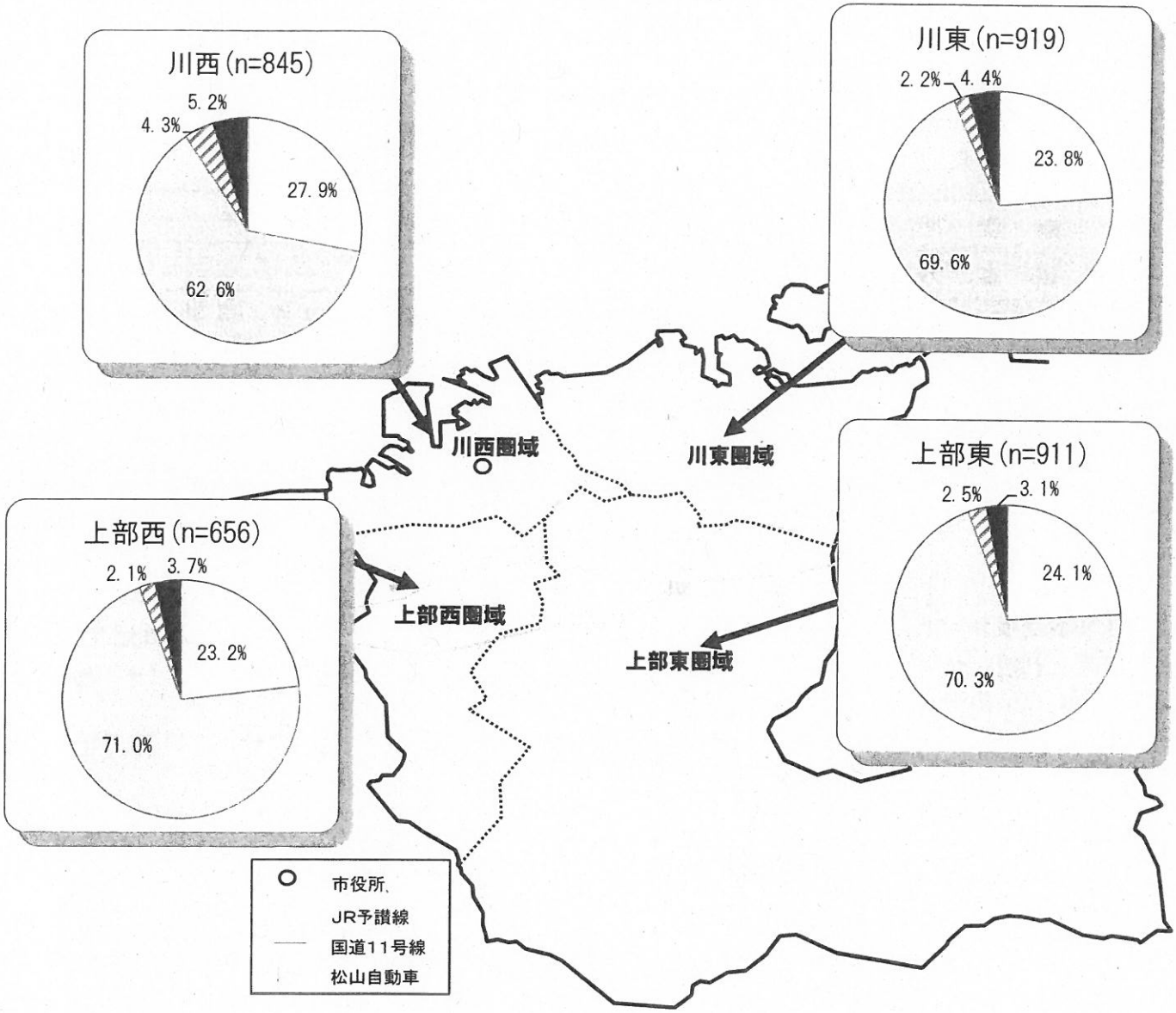
2．複数回答の場合、百分率の合計が100.0%を超える場合があります。

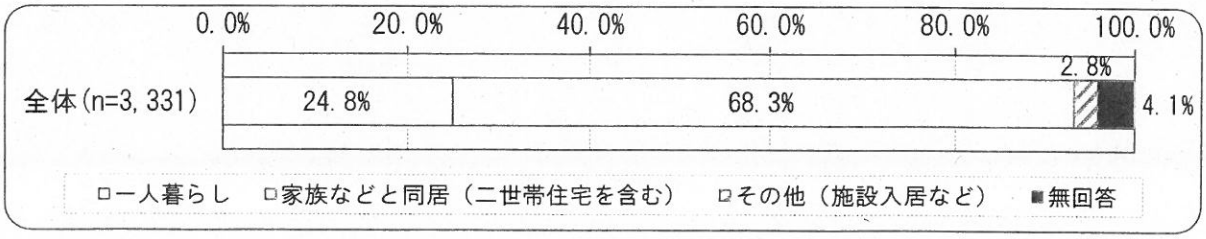
(4)調査結果について(抜粋)

①世帯構成について

アンケート結果より世帯構成を確認すると、新居浜市全体で「一人暮らし」24.8%、「家族などと同居」68.3%、「その他（施設入居など)」2.8%となっています。

圏域別に見る一人暮らしの状況では、川西圏域（27.9%）が最も多く、次いで、上部東圏域（24.1%)、川東圏域（23.8%)、上部西圏域（23.2%）となっています。

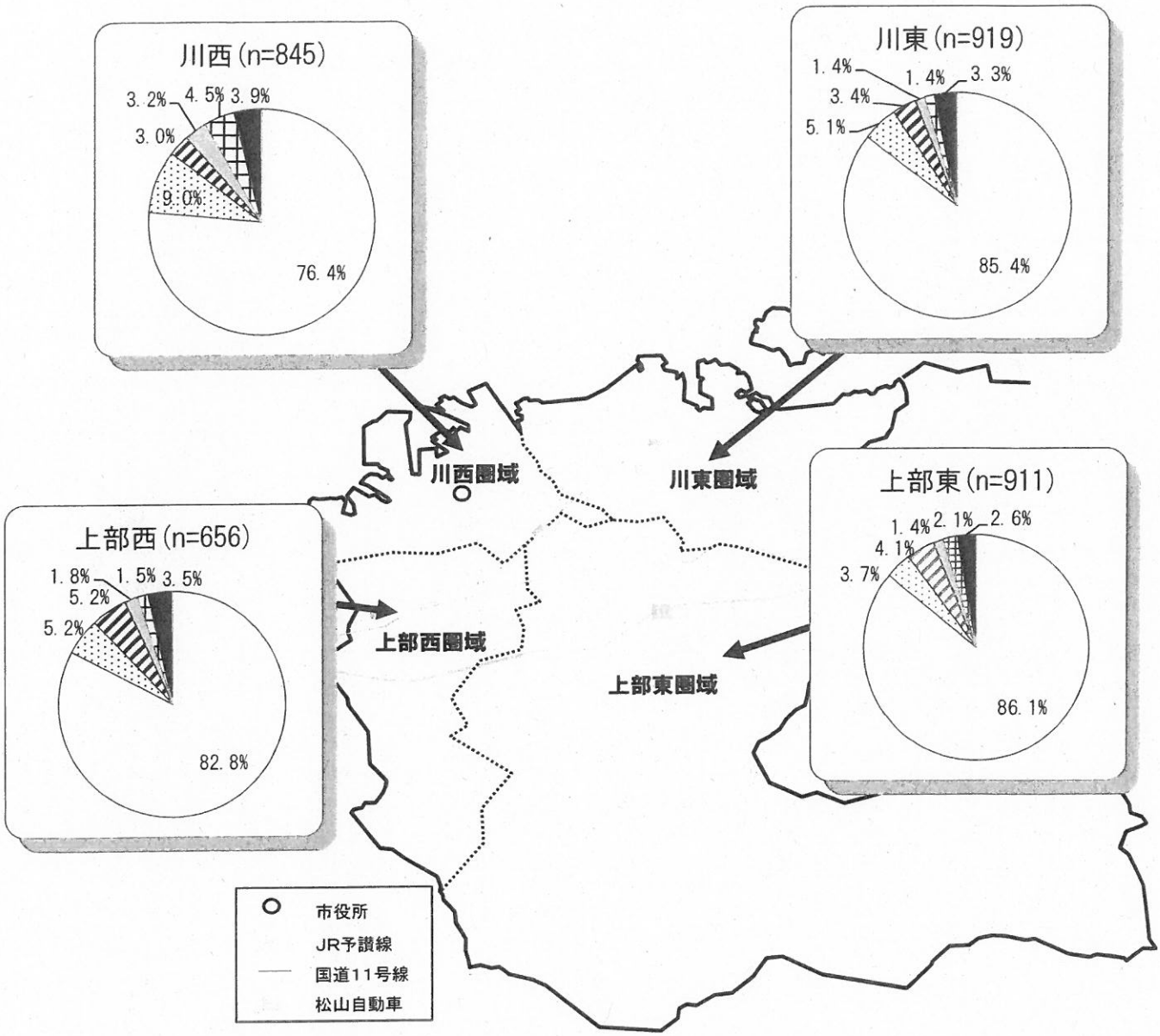


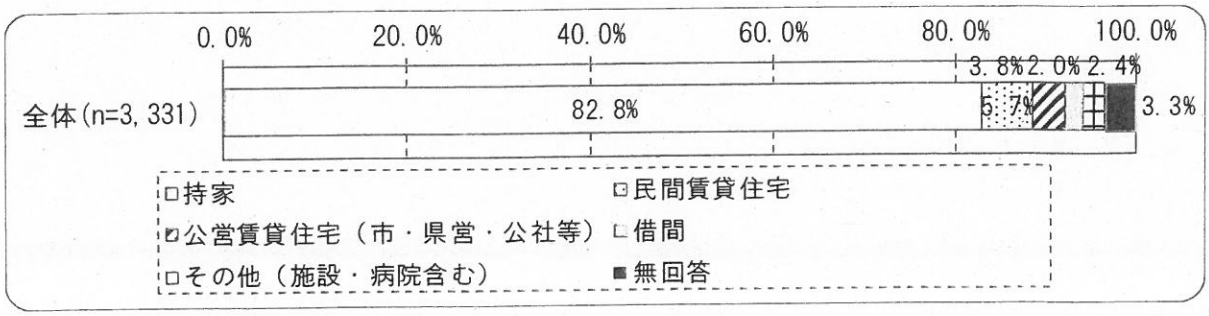


②住まいの状況について

アンケート結果より住まいの状況を確認すると、新居浜市全体で「持家」82.8%、「民間賃貸住宅」5.7%、「公営賃貸住宅」3.8%、「借間」2.0%となっています。

圏域別に見る持家の状況では、上部東圏域(86.1%)が最も多く、次いで、川東圏域(85.4%)、上部西圏域（82.8%)、川西圏域（76.4%）となっています。

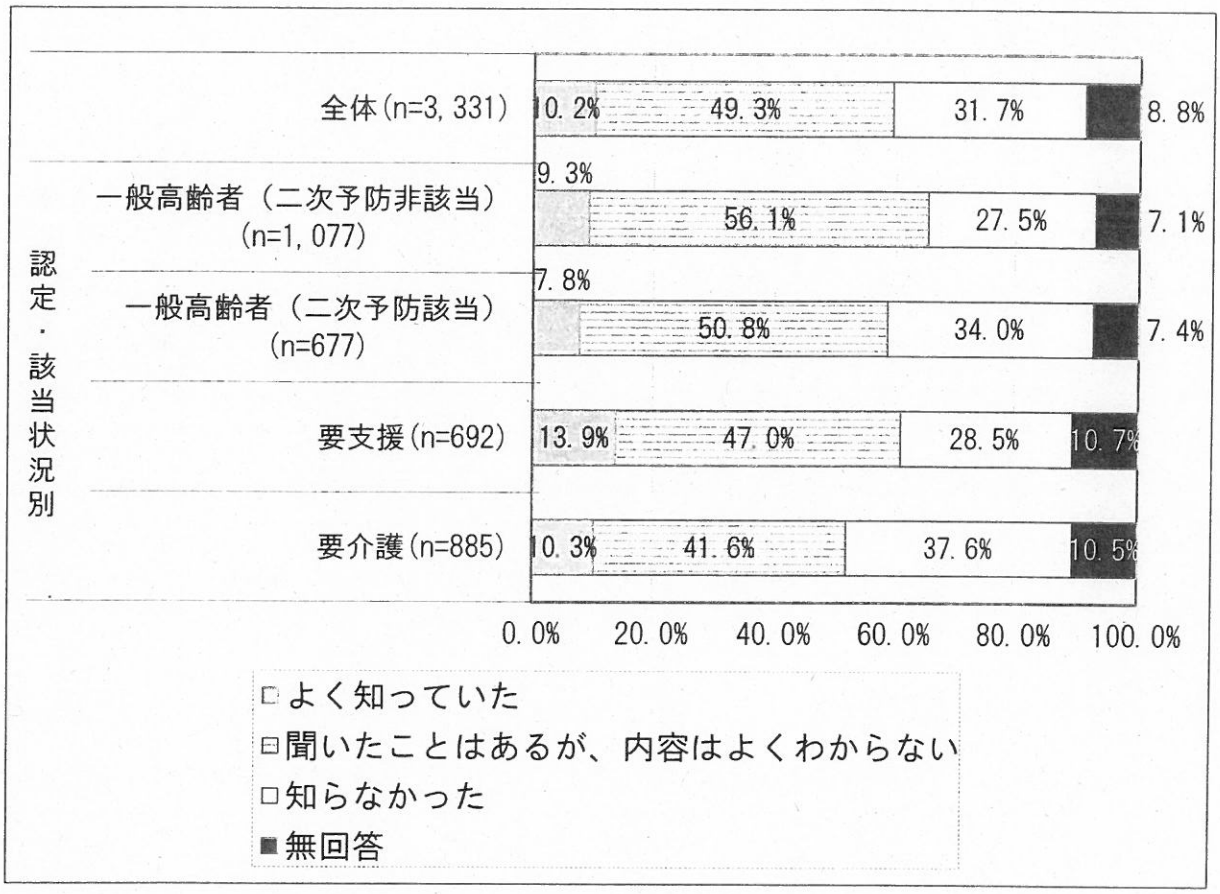




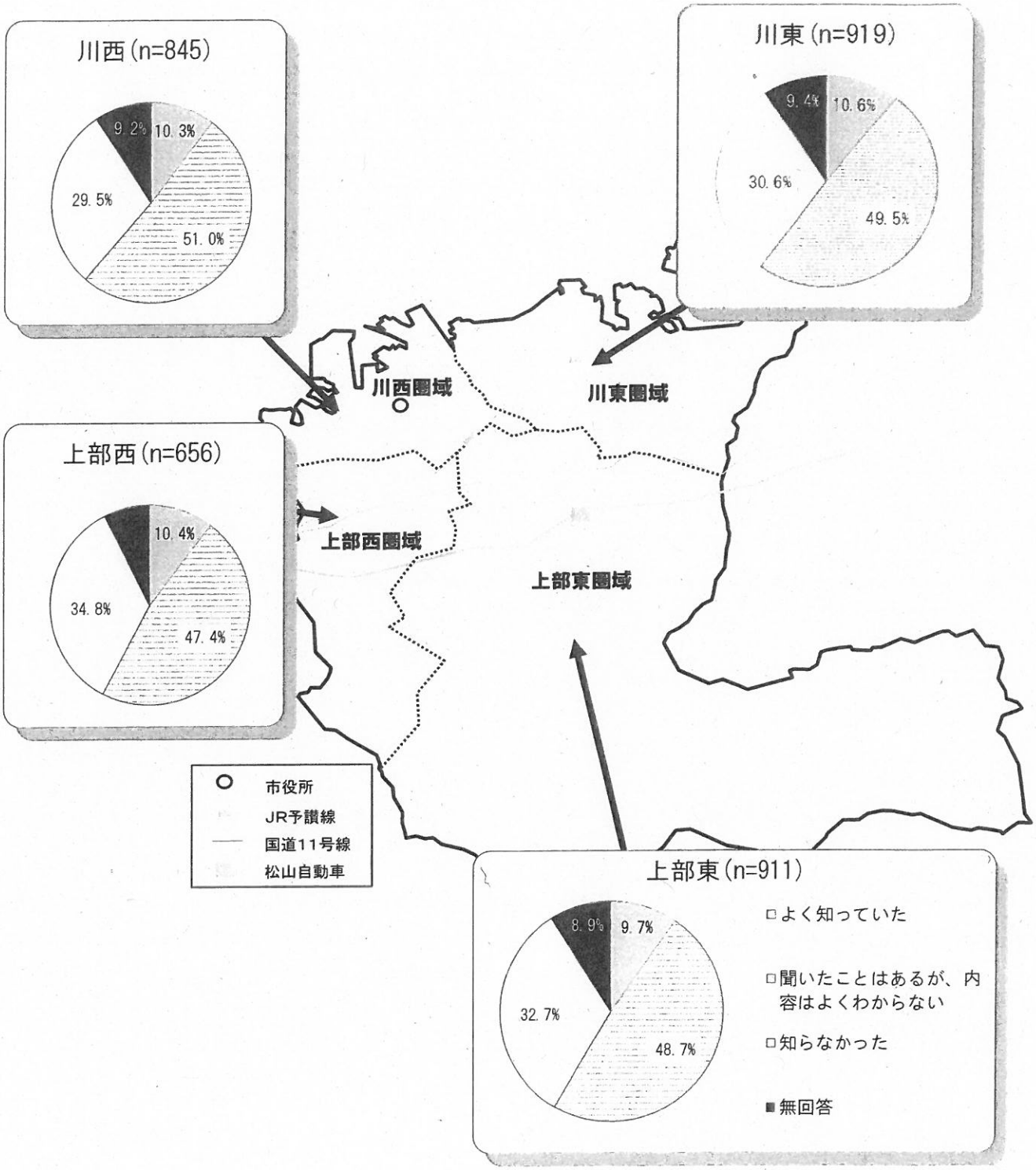
③介護予防事業の認知度について

市で行っている介護予防事業を知っているかたずねると、新居浜市全体では「よく知っていた」10.2%、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」49.3%、「知らなかった」31.7%となっています。

認定・該当状況別にみると、介護予防事業の対象である「一般高齢者（二次予防該当・非該当）」の認知度が10%未満となっており、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」と答えている方も過半数を占めていることから、介護予防事業の周知を図る必要が見受けられます。



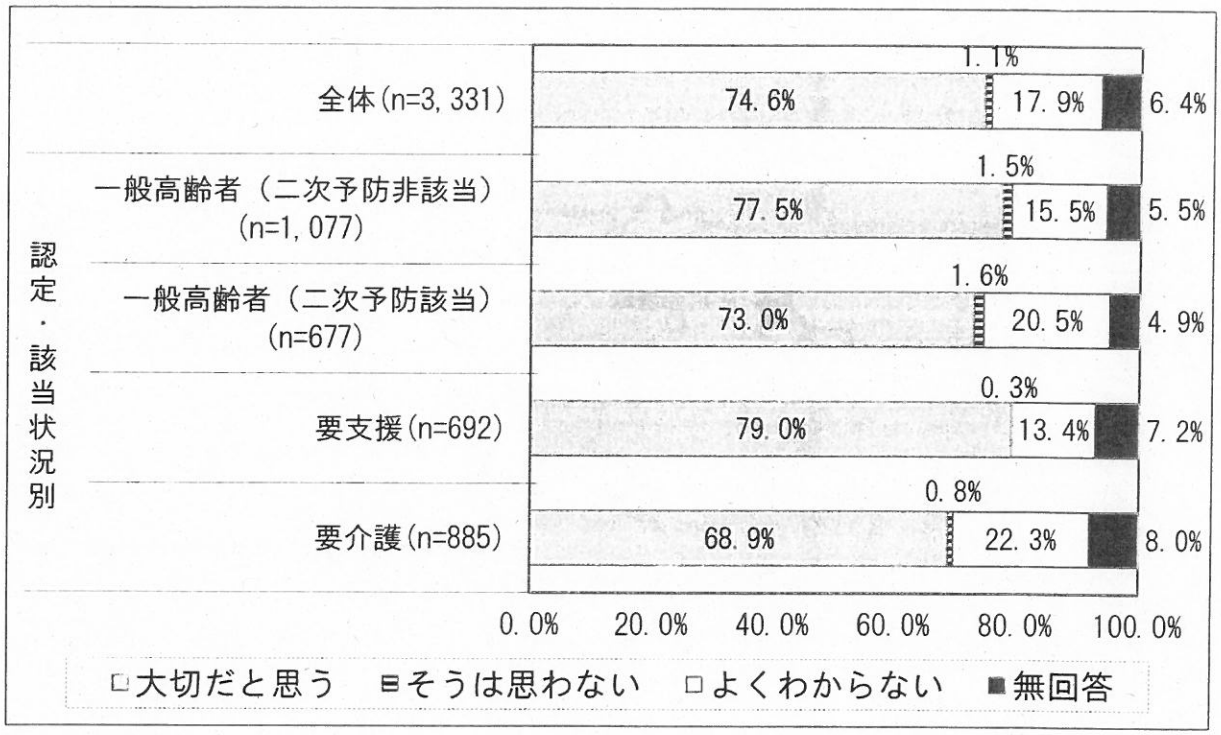
圏域別にみると、あまり差は見られず、いずれも、「よく知っていた」は10%程度、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」は50%程度、「知らなかった」は30%程度となっています。



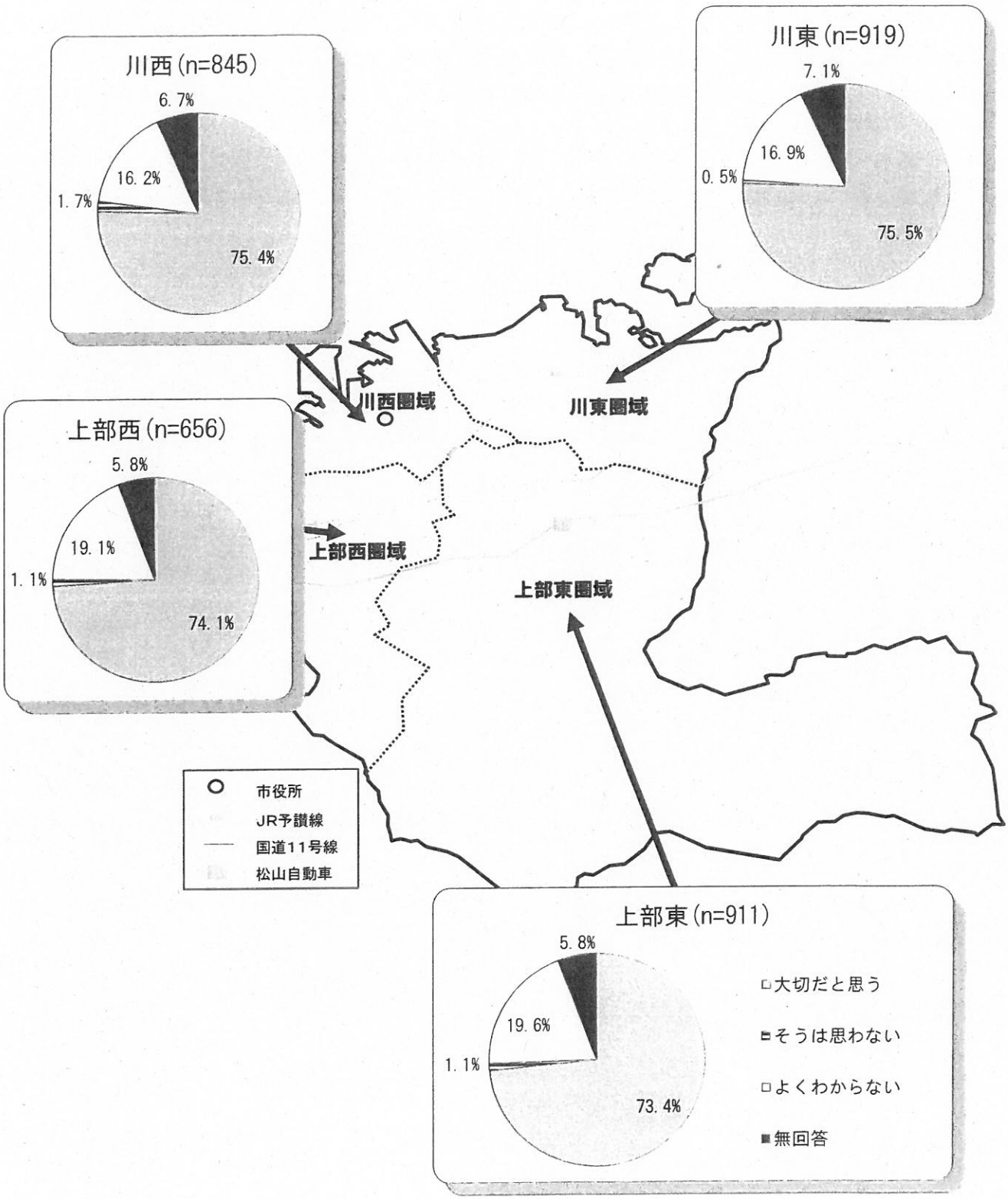
④介護予防の重要度について

介護予防の取り組みを推進することは、大切であると思うかたずねると、新居浜市全体では「大切だと思う」74.6%、「そうは思わない」1.1%、「よくわからない」17.9%となっています。

認定・該当状況別にみると、一般高齢者では「二次予防非該当」より「二次予防該当」のほうが「大切だと思う」と答えた割合が4.5%低くなっています。また、「要支援」は「大切だと思う」と答えた割合が最も高く79.0%を占めています。



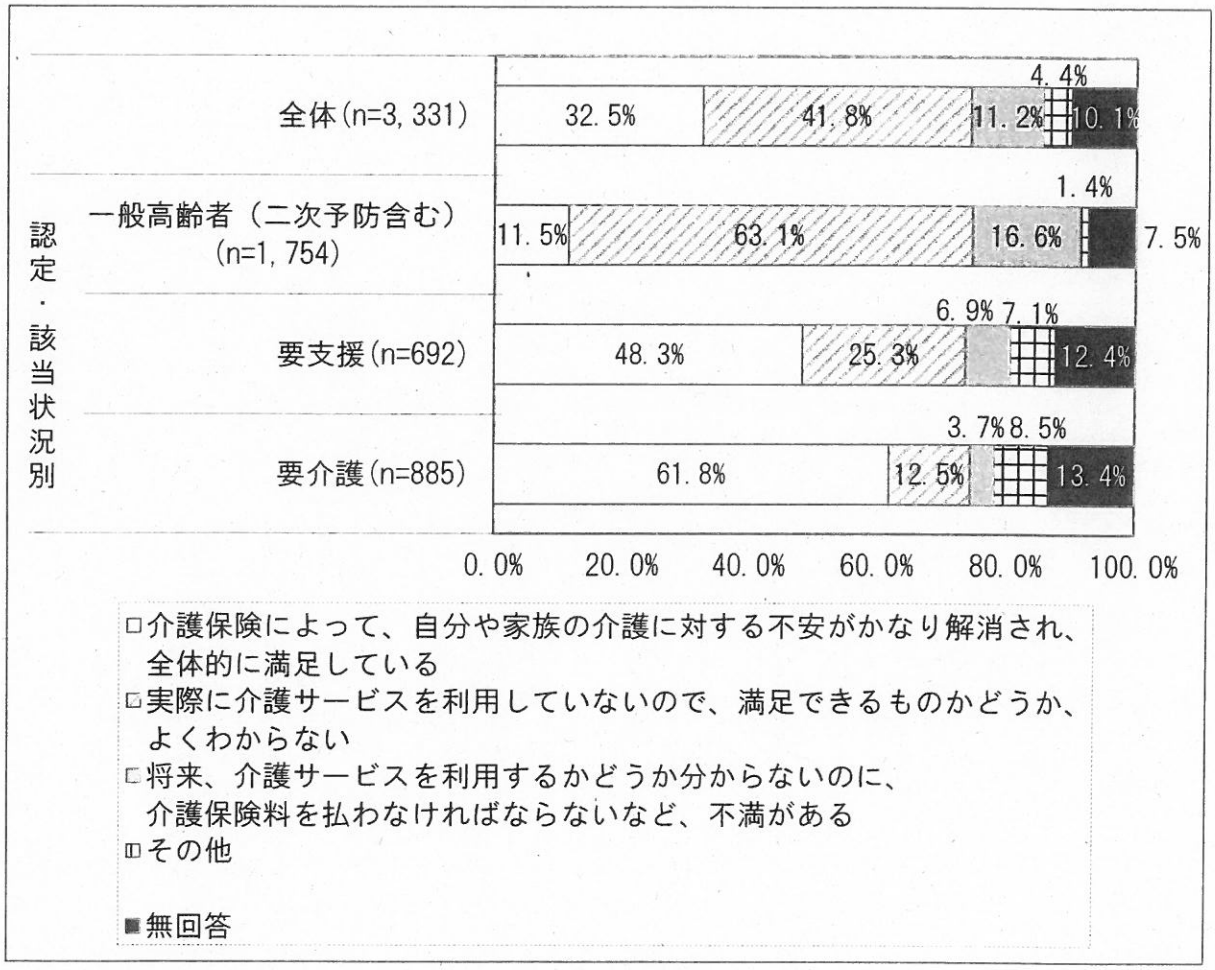
圏域別にみると、あまり差は見られず、いずれも、「大切だと思う」は75%程度、「そうは思わない」は1%程度、「よくわからない」は20%程度となっています。



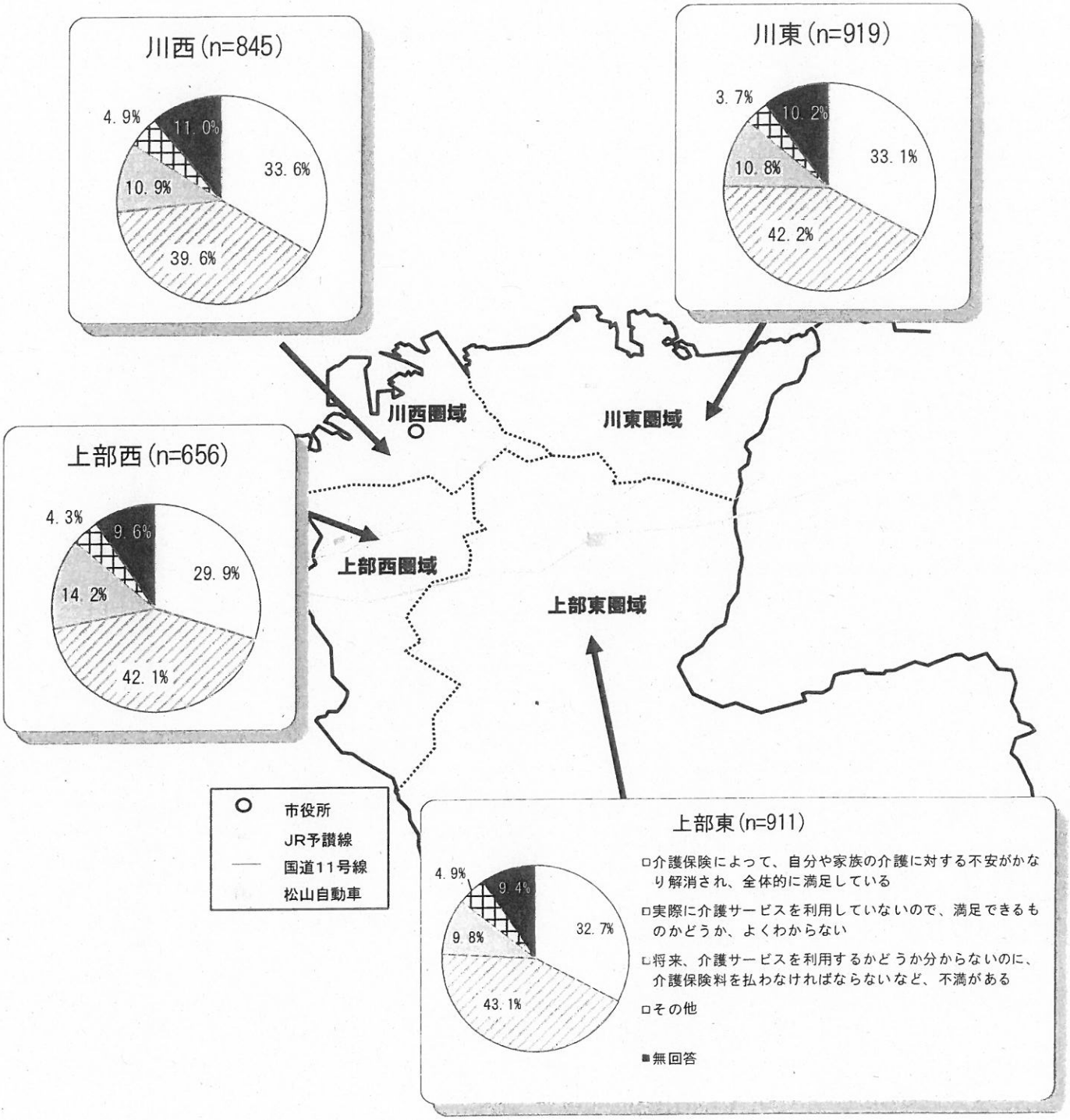
⑤介護保険の評価について

現在の介護保険に対する評価として、一番近いものをたずねると、新居浜市全体では「実際に介護サービスを利用していないので、満足できるものかどうか、よくわからない」と答えた割合が 41.8%と最も高く、次いで、「介護保険によって、自分や家族の介護に対する不安がかなり解消され、全体的に満足している（“満足している方”）」（32.5%）、「将来、介護サービスを利用するかどうか分からないのに、介護保険料を払わなければならないなど、不満がある（“不満がある方”）」（11.2%）の順となっています。

認定・該当状況別にみると、「一般高齢者（二次予防含む）」、「要支援」、「要介護」と要介護状態に近づくにつれて“満足している方”が増加し、“不満がある方”が減少傾向となっています。



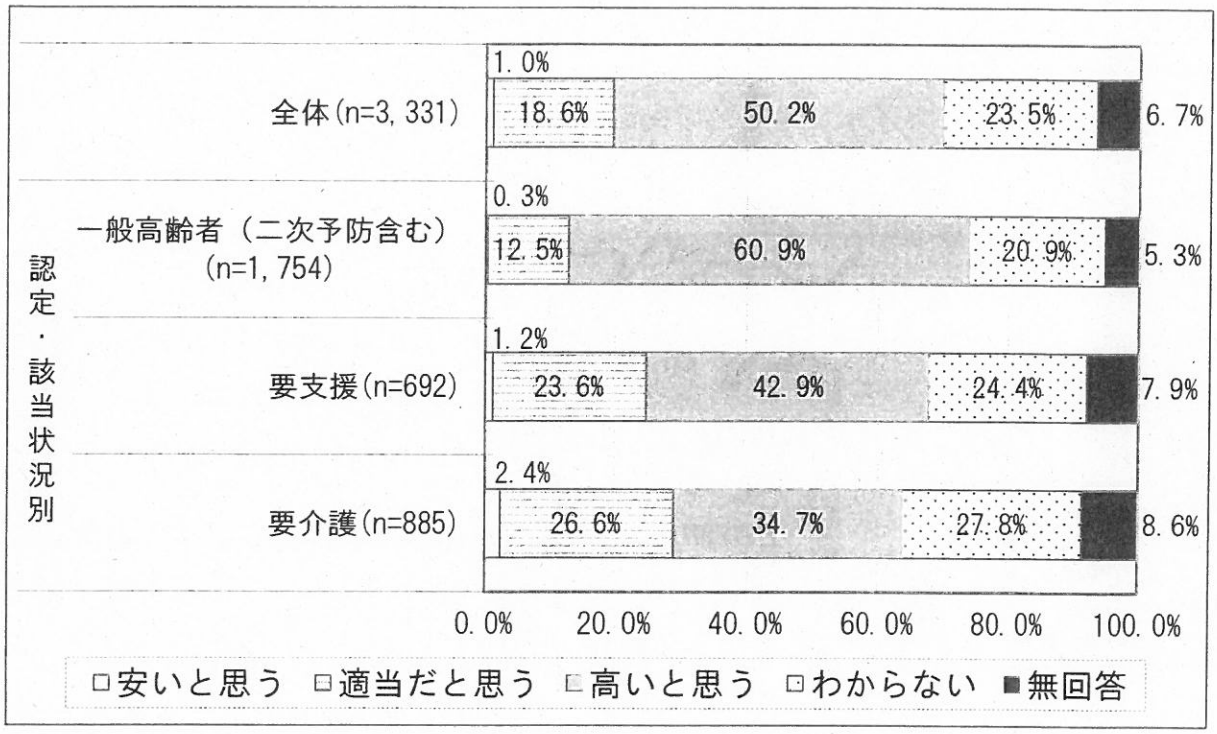
圏域別ではいずれの圏域も“満足している方”が約 3 割、“不満がある方”が約 1 割となっており、圏域による差は見られませんが、上部西圏域の“不満がある方”は 14.2%を占めており、他圏域に比べると 3～5%高くなっています。



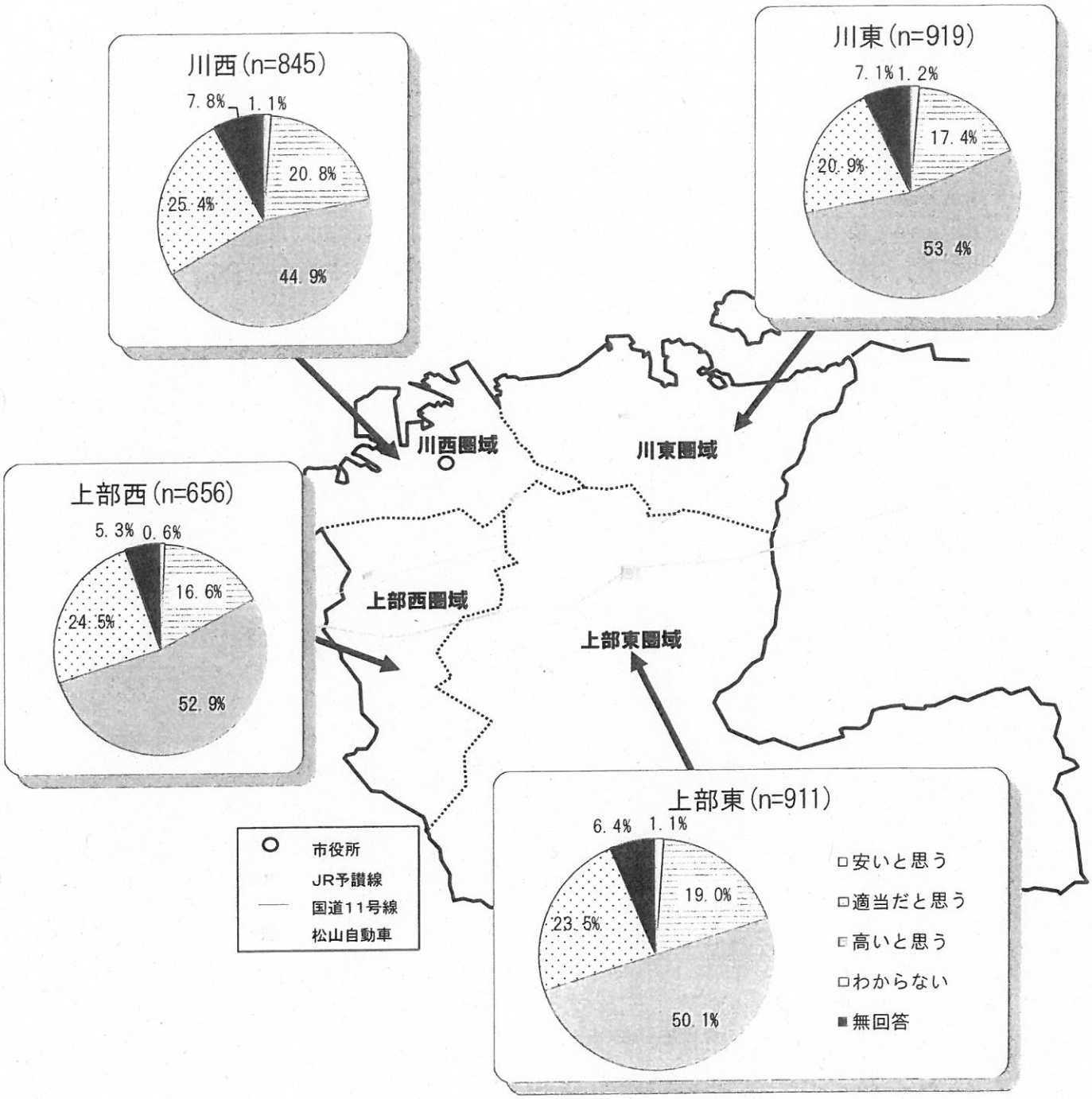
⑥介護保険料の額について

現在、納付されている介護保険料の額についてどのように感じているかたずねると、新居浜市全体では「高いと思う」と答えた割合が最も高く、50.2%を占めています。次いで、「わからない」23.5%、「適当だと思う」18.6%、「安いと思う」1.0%の順となっています。

認定・該当状況別にみると、「一般高齢者（二次予防含む)」、「要支援」、「要介護」と要介護状態に近づくにつれて「高いと思う」が減少し、「安いと思う」が微増、「適当だと思う」、「わからない」が増加傾向となっています。



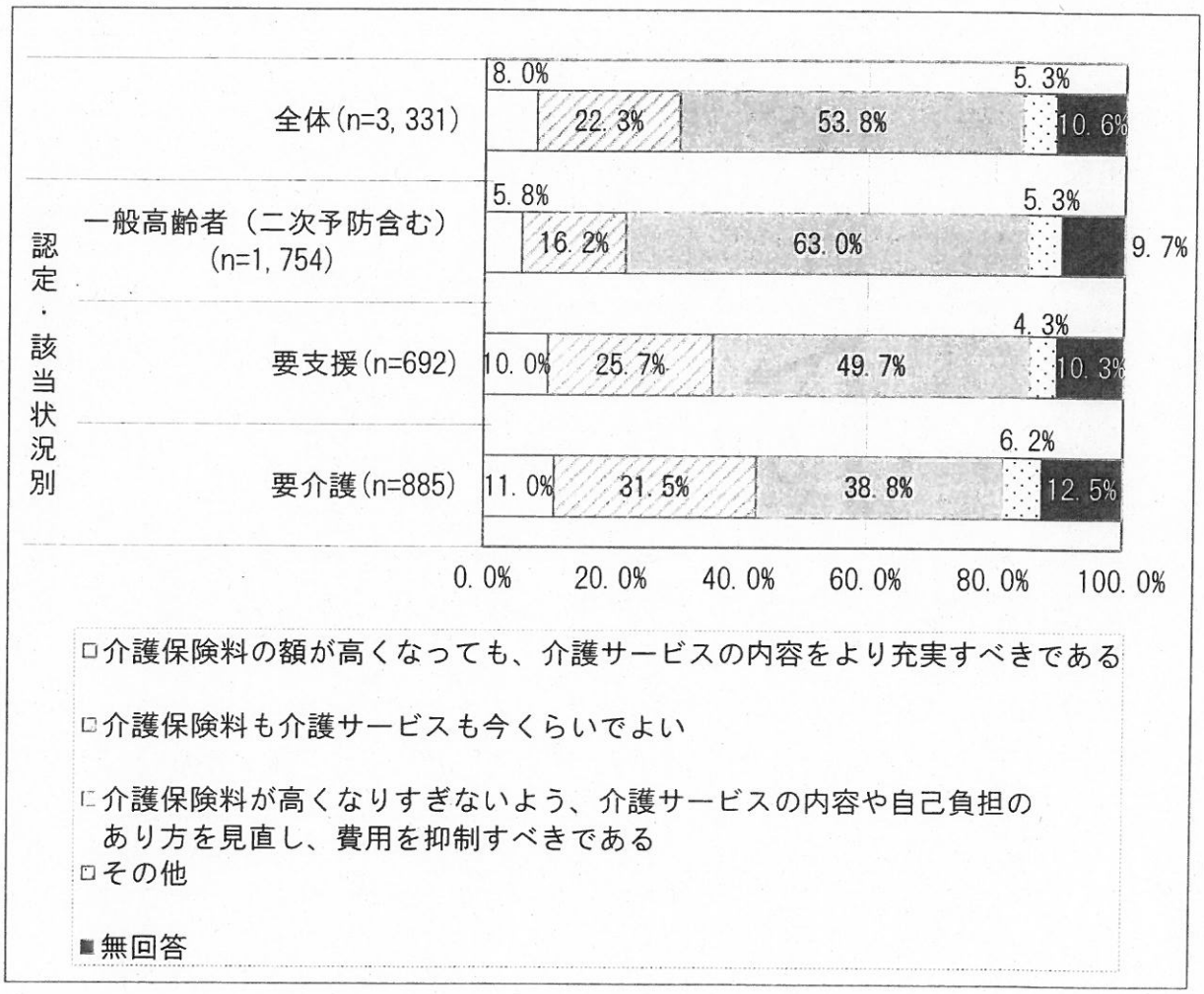
圏域別にみると、「高いと思う」と答えた割合は川東圏域（53.4%）が最も高く、次いで、上部西（52.9%）、上部東（50.1%）、川西（44.9%）となっていますが、圏域による差は10%未満となっています。



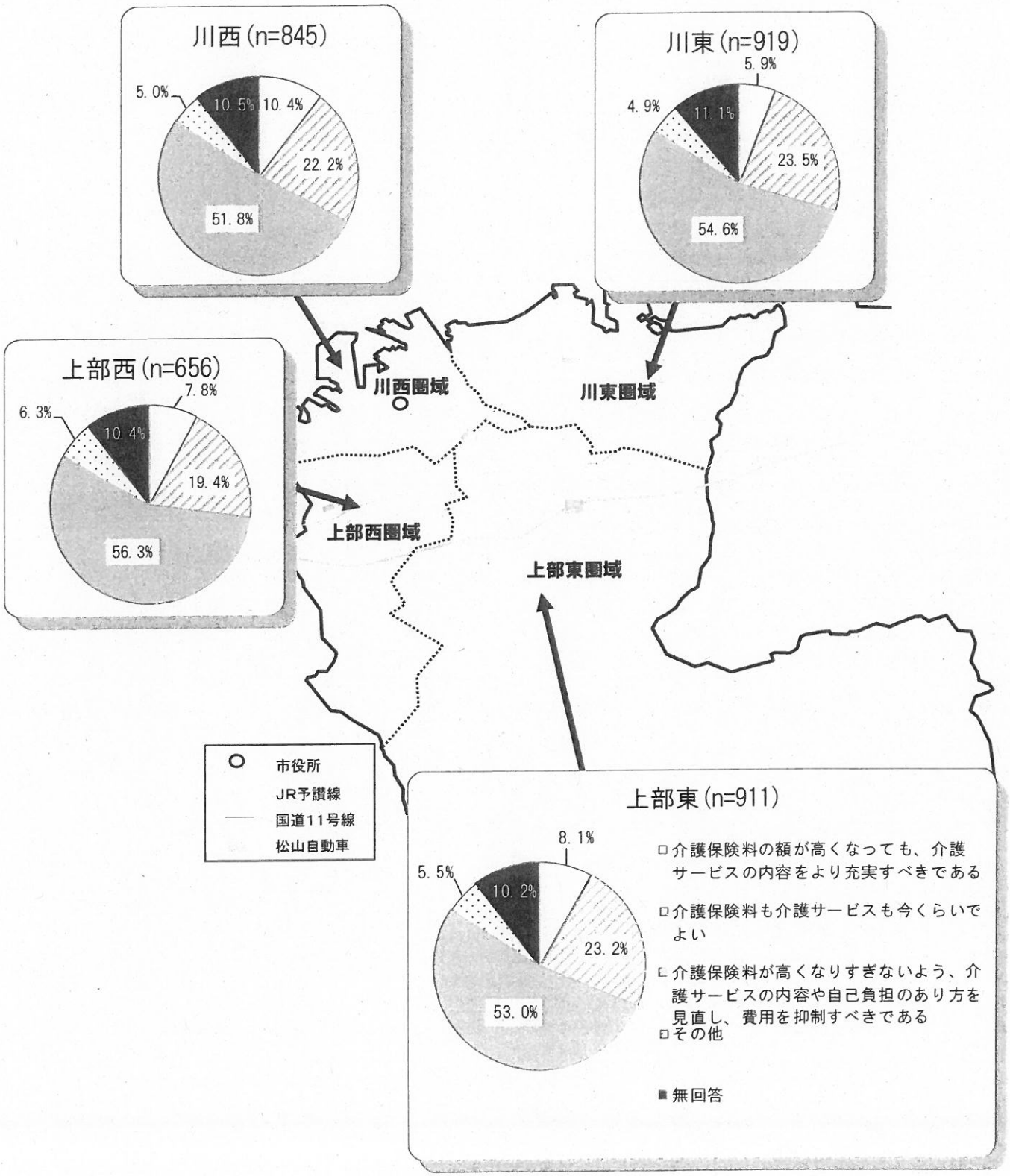
⑦介護保険のあり方について

介護サービスを利用する人が増えたり、１人あたりのサービス利用額が増えたりすると、介護保険料の額は高くなる仕組みになっていることを踏まえたうえで、介護保険のあり方について、最も近い考えをたずねると、新居浜市全体では「介護保険料が高くなりすぎないよう、介護サービスの内容や自己負担のあり方を見直し、費用を抑制すべきである」と答えた割合が最も高く 53.8%となっています。次いで、「介護保険料も介護サービスも今くらいでよい」22.3%、「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」8.0%となっています。

認定・該当状況別にみると、「一般高齢者（二次予防含む)」、「要支援」、「要介護」と要介護状態に近づくにつれて「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」と答えた方が微増し、「介護保険料も介護サービスも今くらいでよい」が増加しています。



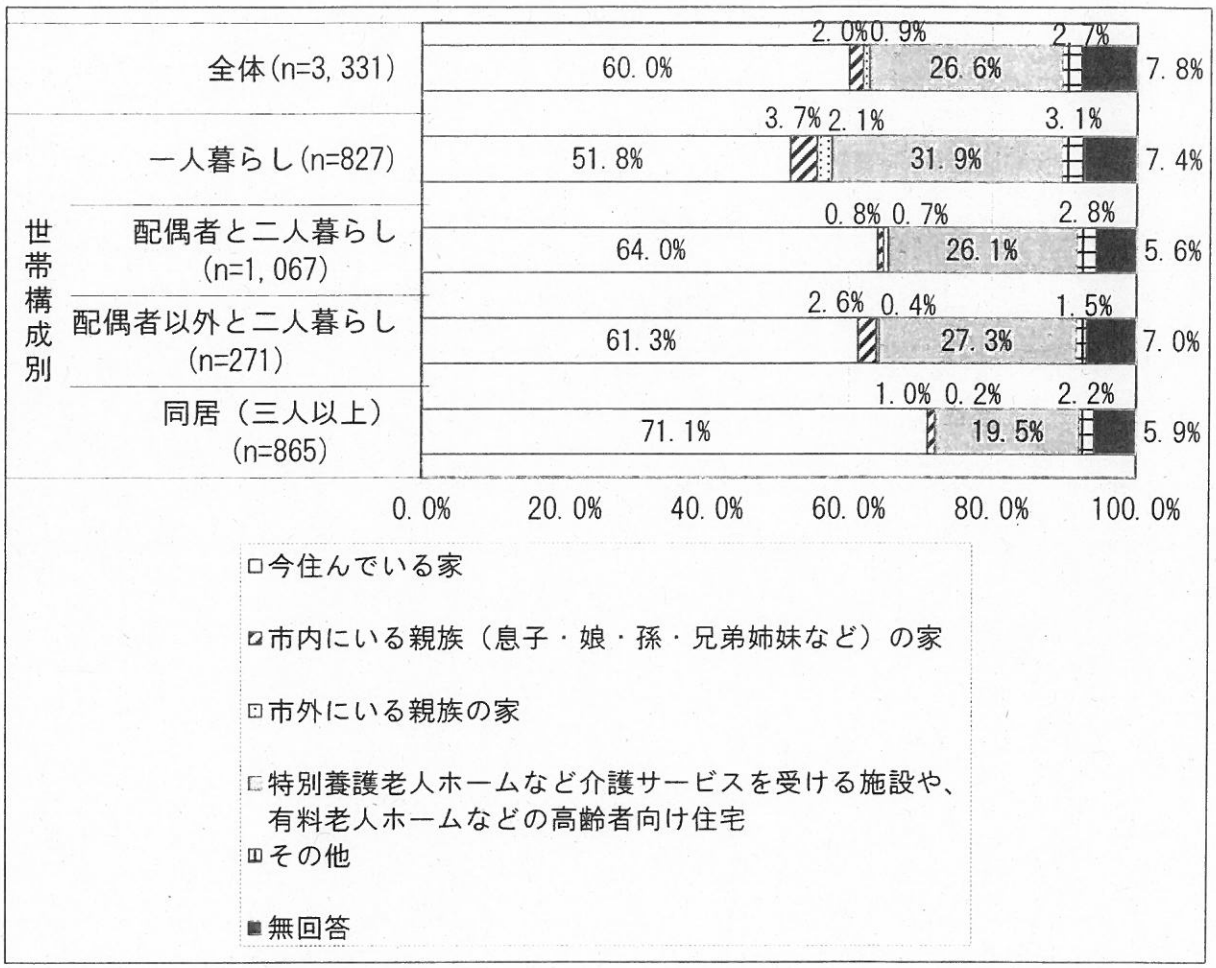
圏域別にみると、川西圏域は「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」と答えた割合が10.4%となっており、川東圏域（5.9%）の約2倍となっています。「介護保険料が高くなりすぎないよう、介護サービスの内容や自己負担のあり方を見直し、費用を抑制すべきである」と答えた割合はいずれの圏域も50～60%程度となっています。



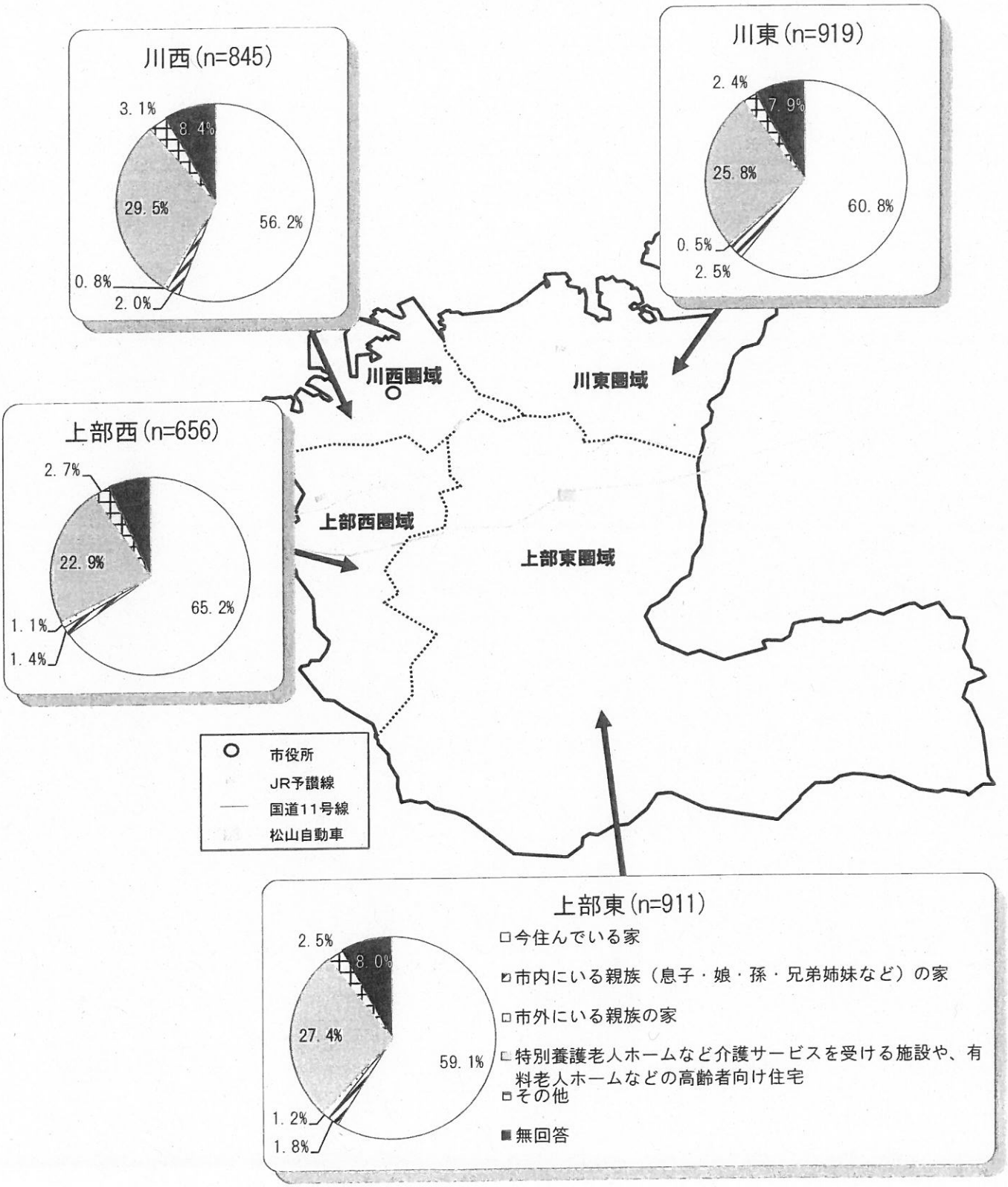
⑧将来の住まいについて

将来、仮に介護が必要になった場合、どこで暮らしたいと思うかたずねると、新居浜市全体では「今住んでいる家」(60.0%)、「特別養護老人ホームなど介護サービスを受ける施設や、有料老人ホームなどの高齢者向け住宅」(26.6%) と答えた割合が高くなっています。

世帯構成別にみると、「同居 (三人以上)」は「今住んでいる家」が 71.1%となっていますが、「一人暮らし」は 51.8%となっており、「特別養護老人ホームなど介護サービスを受ける施設や、有料老人ホームなどの高齢者向け住宅」が 31.9%を占めています。



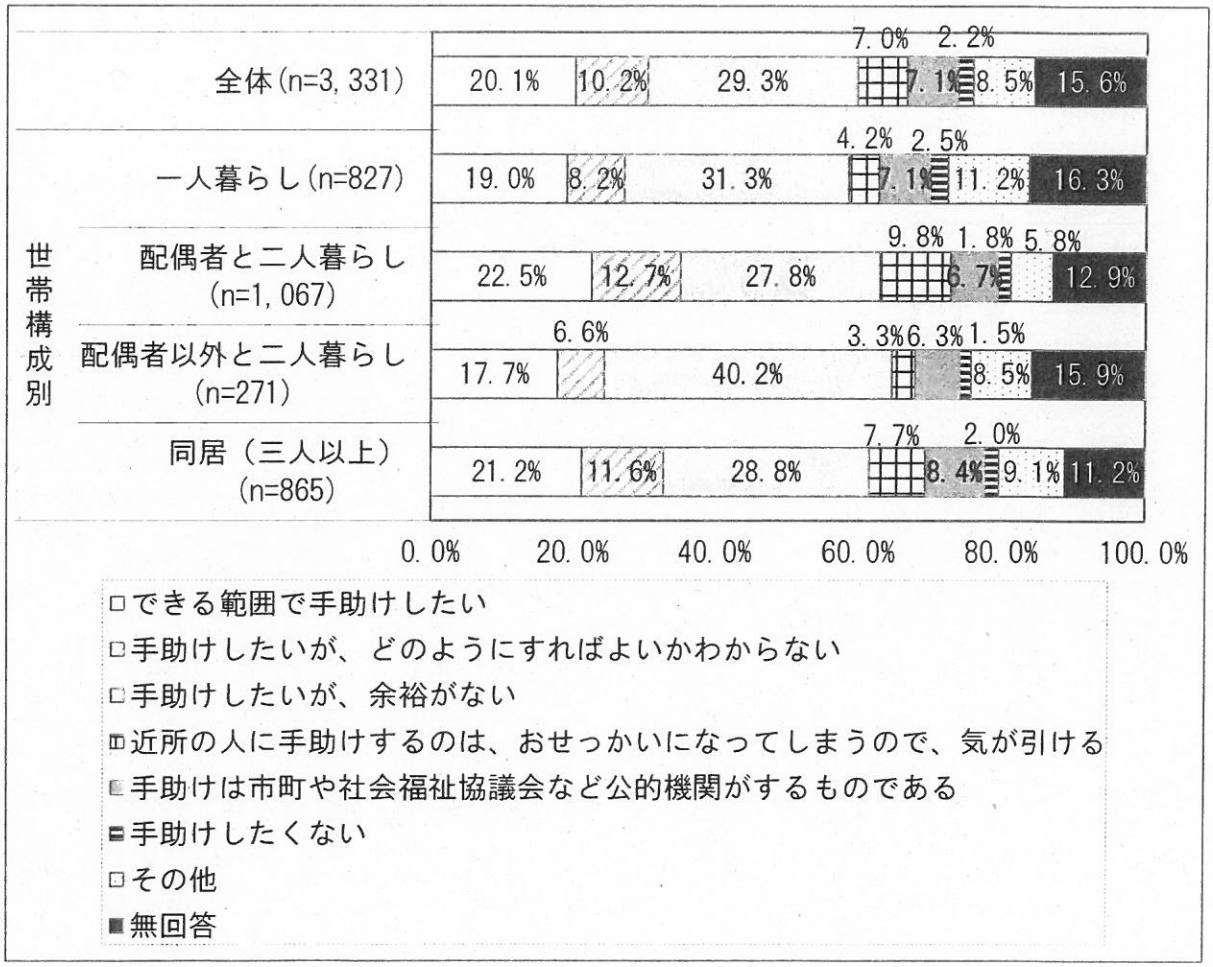
圏域別にみると、「今住んでいる家」と答えた割合は上部西圏域（65.2%）、「特別養護老人ホームなど介護サービスを受ける施設や、有料老人ホームなどの高齢者向け住宅」と答えた割合は一人暮らしの高齢者が多い川西圏域（29.5%）で高くなっています。また、いずれの圏域でも「親族の家」と答えた割合は3%程度となっています。



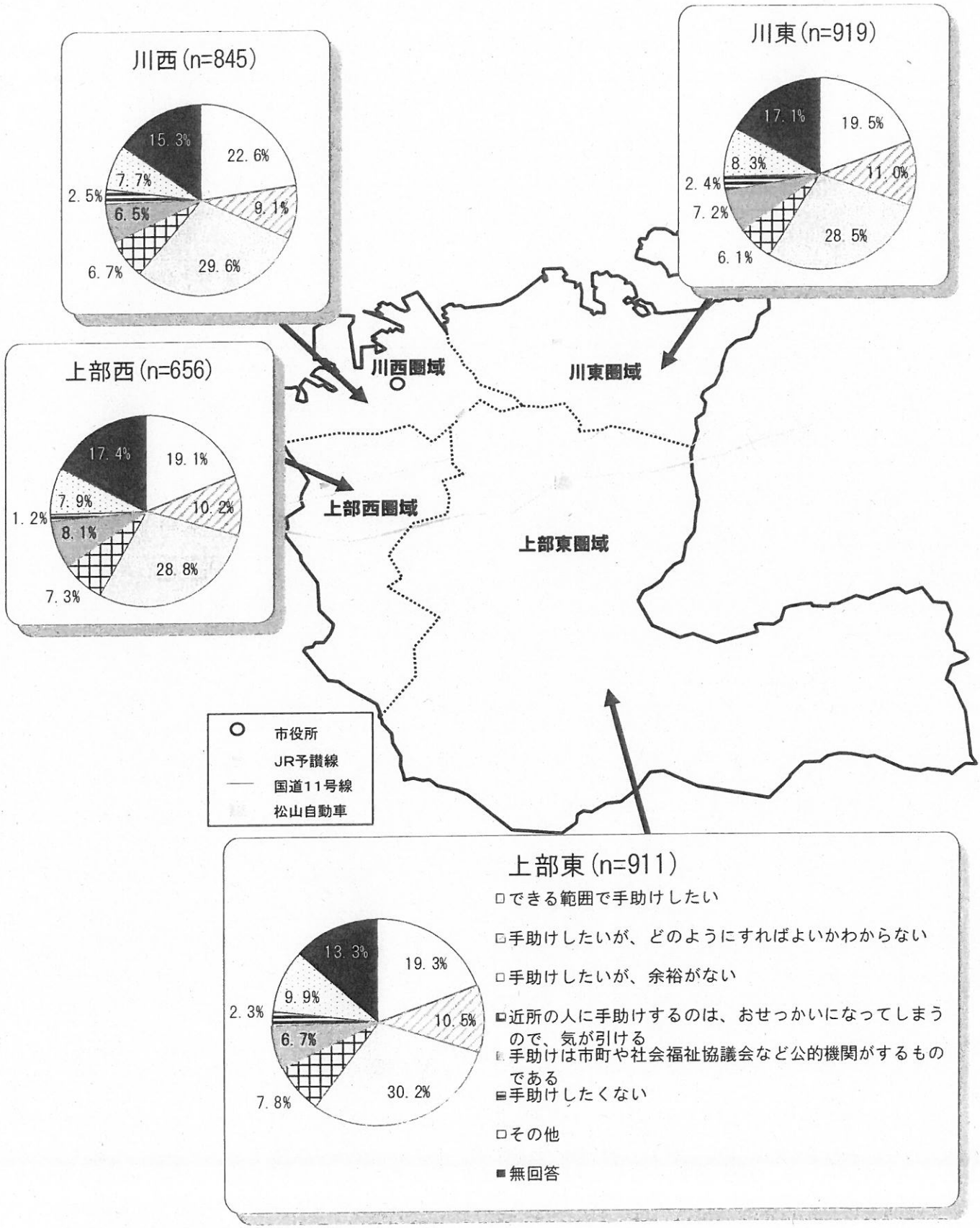
⑨一人暮らしの高齢者への手助けについて

地域で何らかの日常生活上の支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについて、最も近い考えをたずねると、新居浜市全体では、「手助けしたいが、余裕がない」と答えた割合が29.3%と最も高くなっており、次いで、「できる範囲で手助けしたい」(20.1%)、「手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない」(10.2%)の順となっています。

世帯構成別にみると、「配偶者と二人暮らし」、「同居(三人以上)」では「できる範囲で手助けしたい」と答えた割合が他世帯に比べて高くなっており、「配偶者以外と二人暮らし」では「手助けしたいが、余裕がない」が40.2%を占めています。



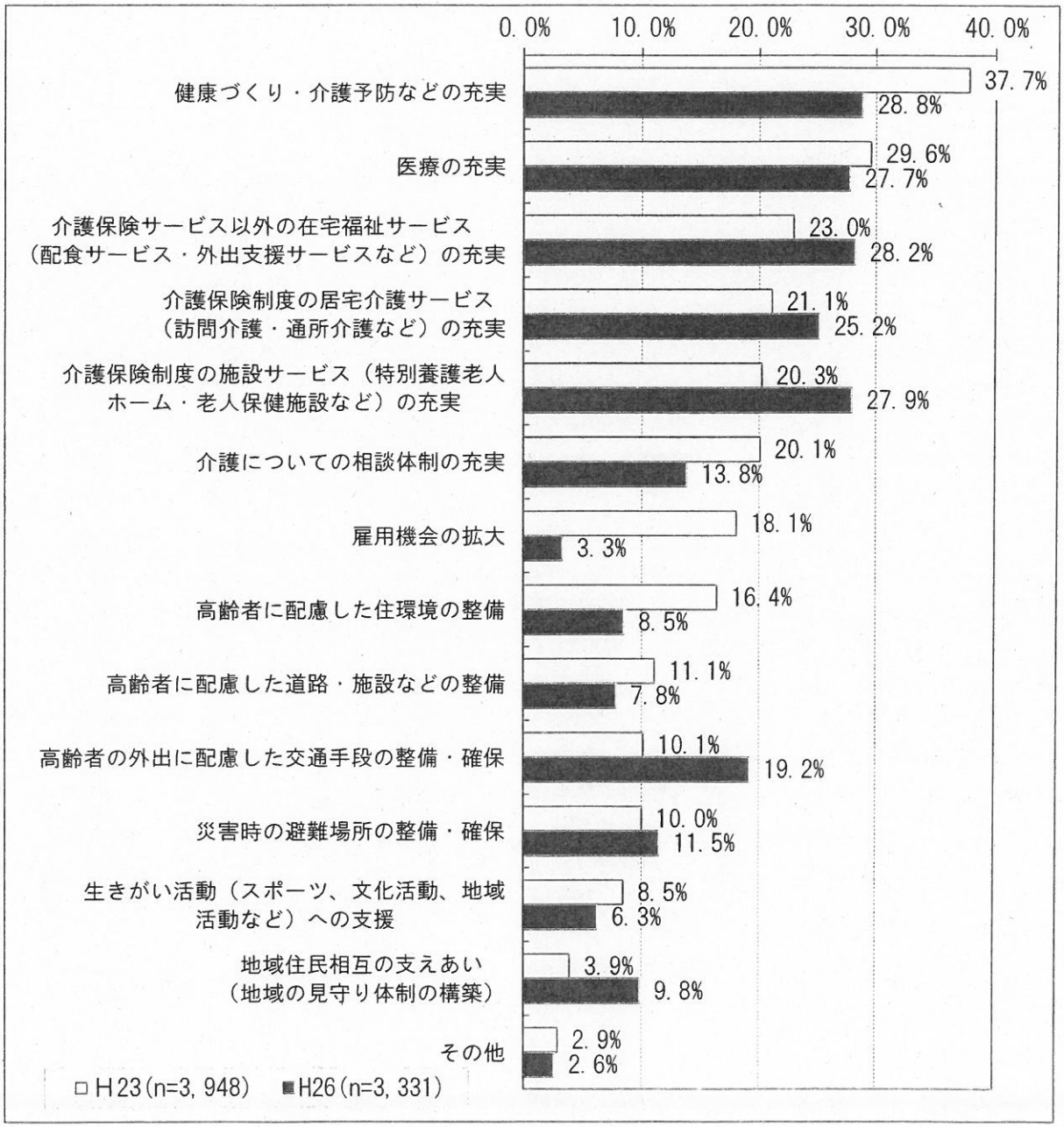
圏域別にみると、いずれの圏域も「できる範囲で手助けしたい」が約 2 割、「手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない」が約 1 割、「手助けしたいが、余裕がない」が約 3 割となっており、圏域による違いは見られませんでした。



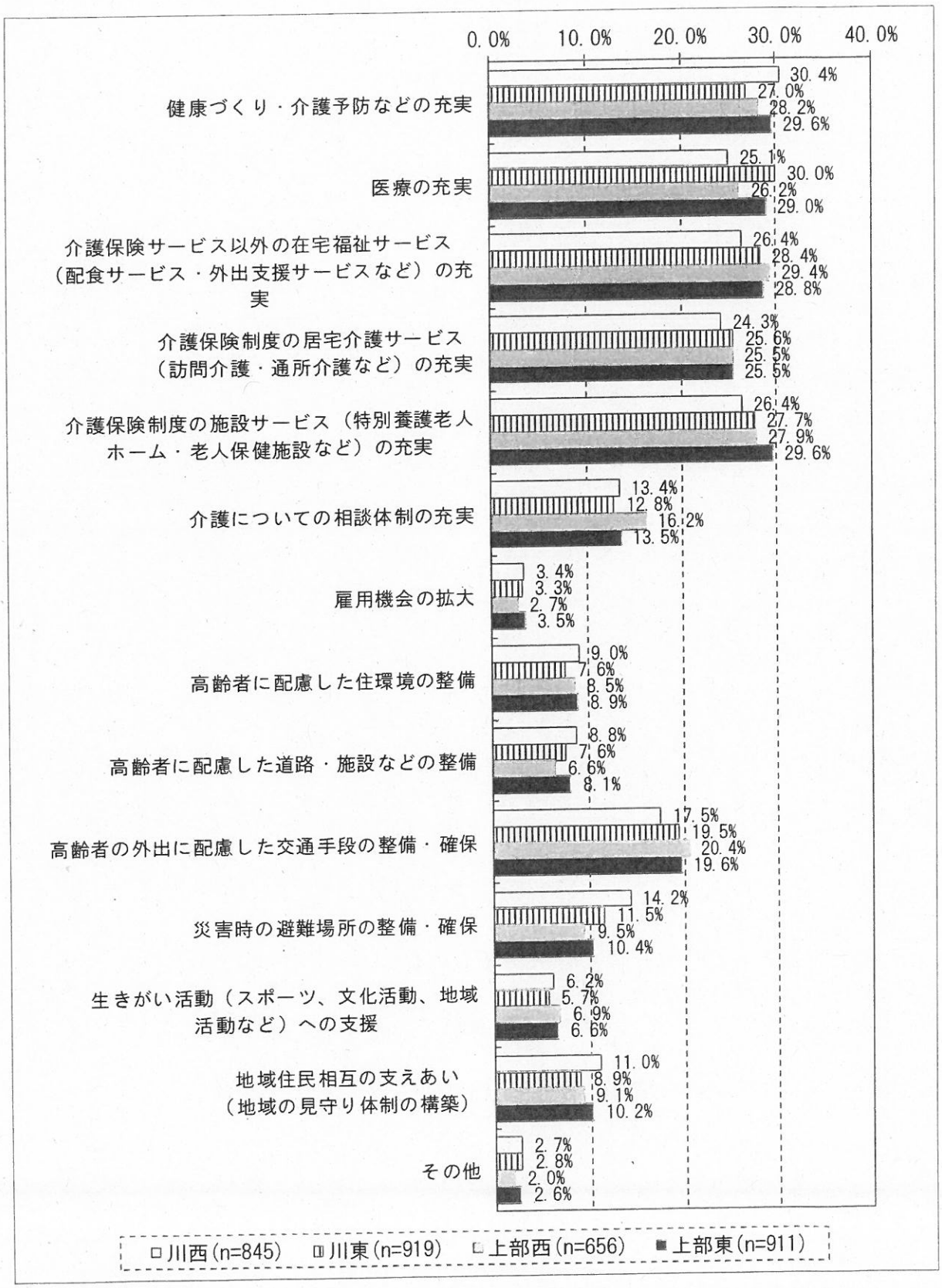
⑩行政に力を入れてほしいことについて

高齢者が暮らしやすくなるために、行政に対して今後どのようなことに力を入れてほしいかたずねると、「健康づくり・介護予防などの充実」(28.8%)、「介護保険サービス以外の在宅福祉サービスの充実」(28.2%)、「介護保険制度の施設サービスの充実」(27.9%)、「医療の充実」(27.7%) と答えた割合が高くなっています。

また、平成23年度と比較すると、「介護保険サービス以外の在宅福祉サービスの充実」、「介護保険制度の居宅介護サービスの充実」「介護保険制度の施設サービスの充実」、「高齢者の外出に配慮した交通手段の整備・確保」に大幅な増加が見受けられます。一方、「健康づくり・介護予防などの充実」、「雇用機会の拡大」、「高齢者に配慮した住環境の整備」は約10%減少しています。



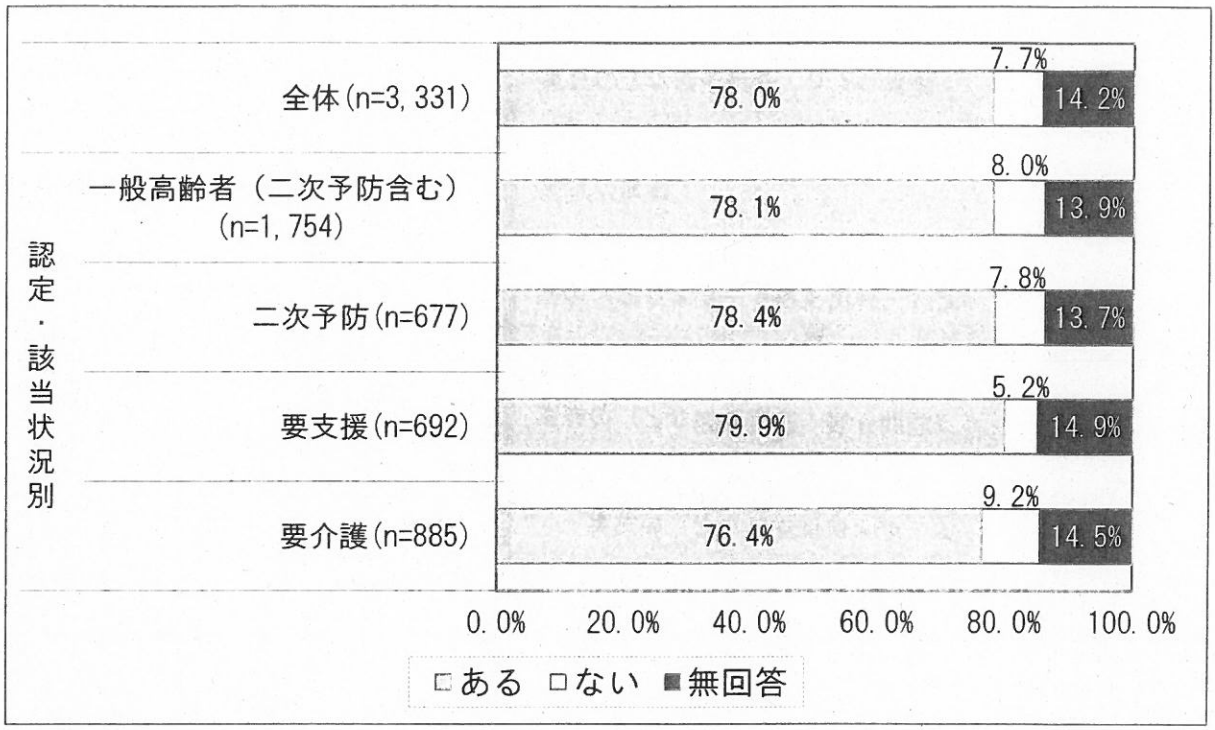
圏域別にみると、川西圏域は「健康づくり・介護予防などの充実」、川東圏域は「医療の充実」、上部西圏域は「介護保険サービス以外の在宅福祉サービスの充実」、上部東圏域は「健康づくり・介護予防などの充実」、「介護保険制度の施設サービスの充実」と答えた割合が高くなっています。



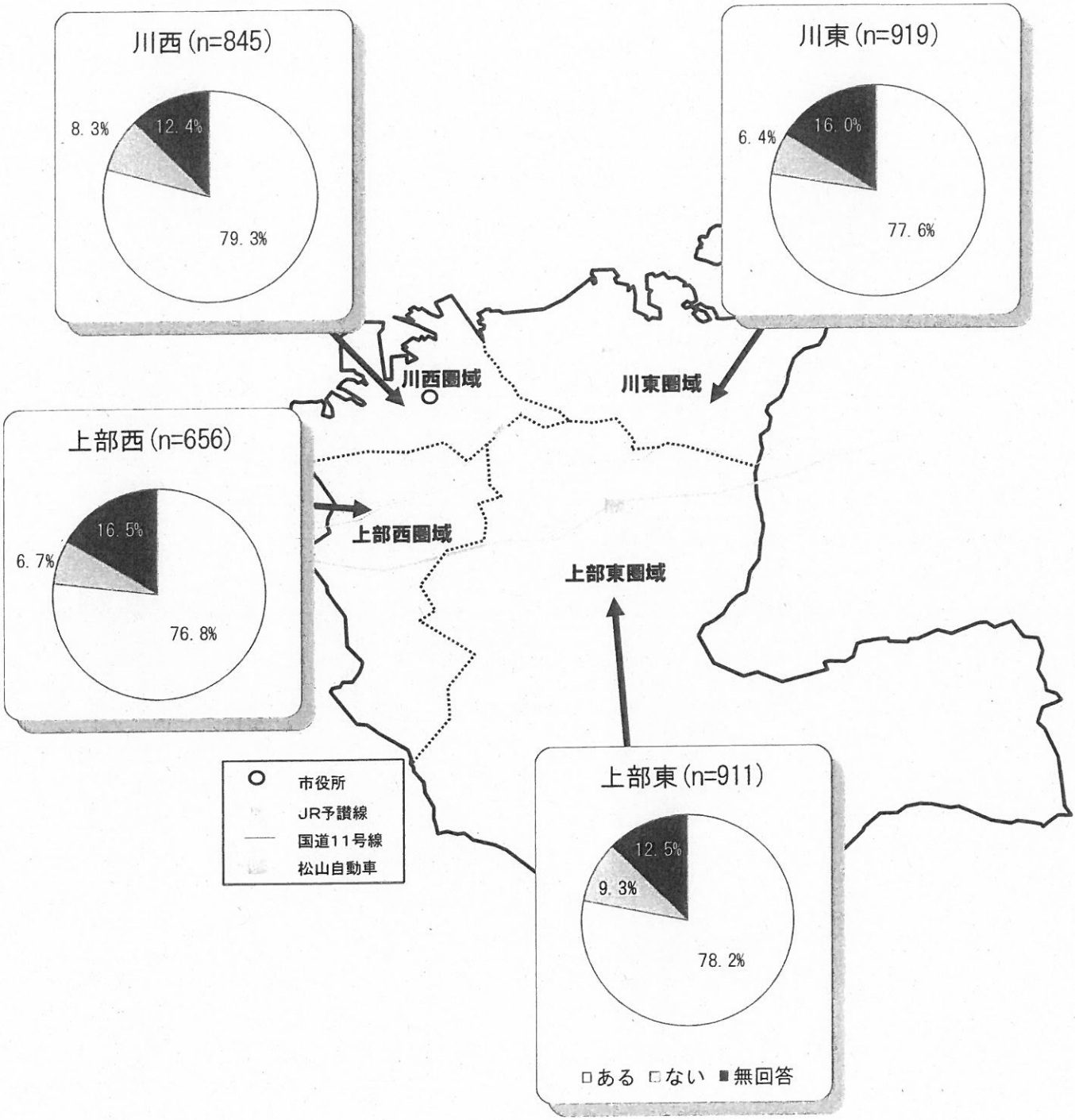
⑪認知症への関心について

認知症について関心があるかたずねると、新居浜市全体では、「ある」78.0%、「ない」7.7%となっています。

認定・該当状況別にみると「ある」と答えた方の割合は、「要支援」79.9%と最も高くなっていますが、すべてにおいて80%近くとなっており、差はみられませんでした。



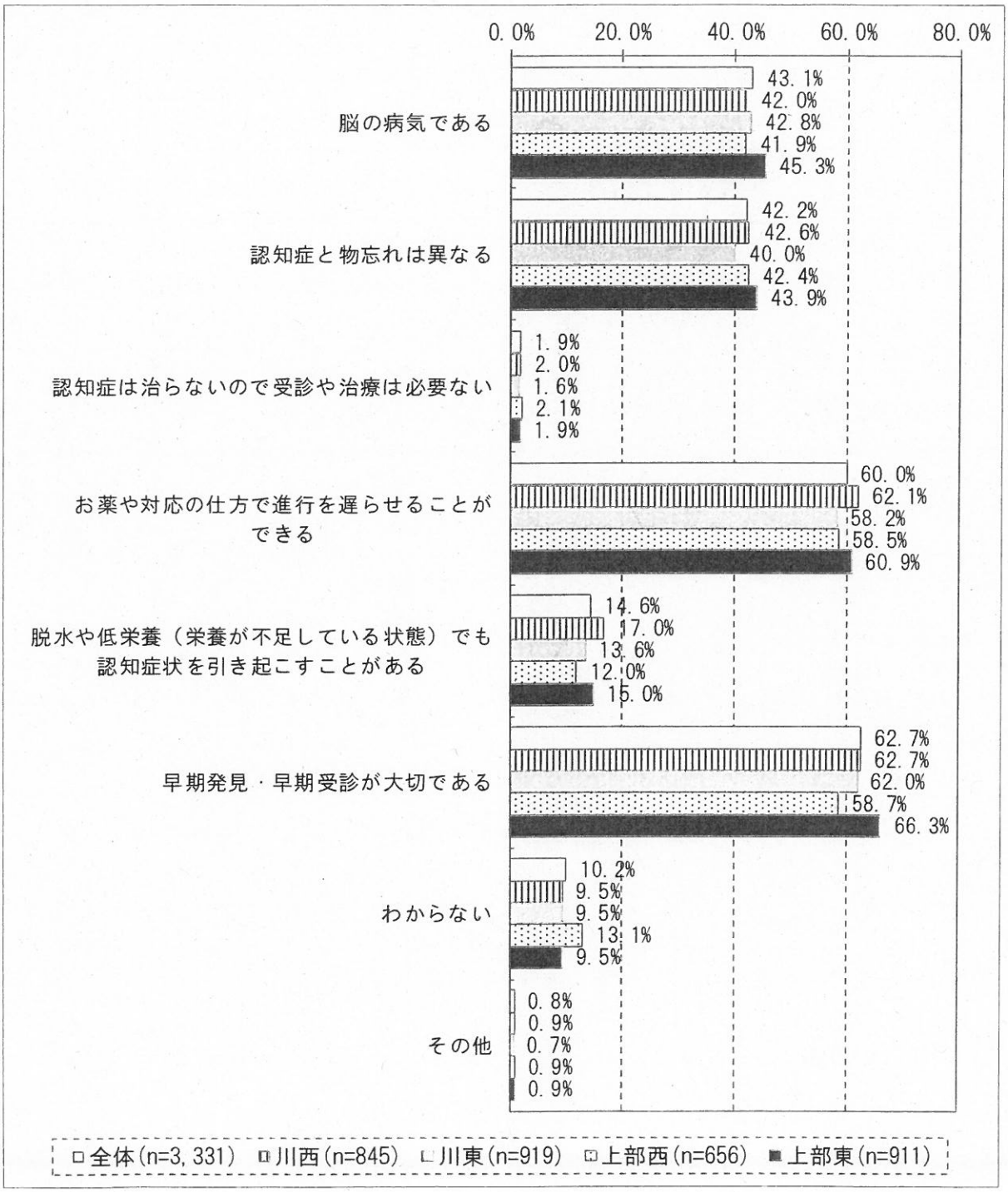
圏域別にみると「ある」と答えた方の割合は、川西圏域79.3%が最も高くなっていますが、すべてにおいて80%近くとなっており、圏域による差はみられませんでした。



⑫認知症の理解度について

認知症についてどのように理解しているかたずねると、「早期発見・早期受診が大切である」（62.7%）、「お薬や対応の仕方で進行を遅らせることができる」（60.0%）と答えた割合が 6 割以上と高くなっています。

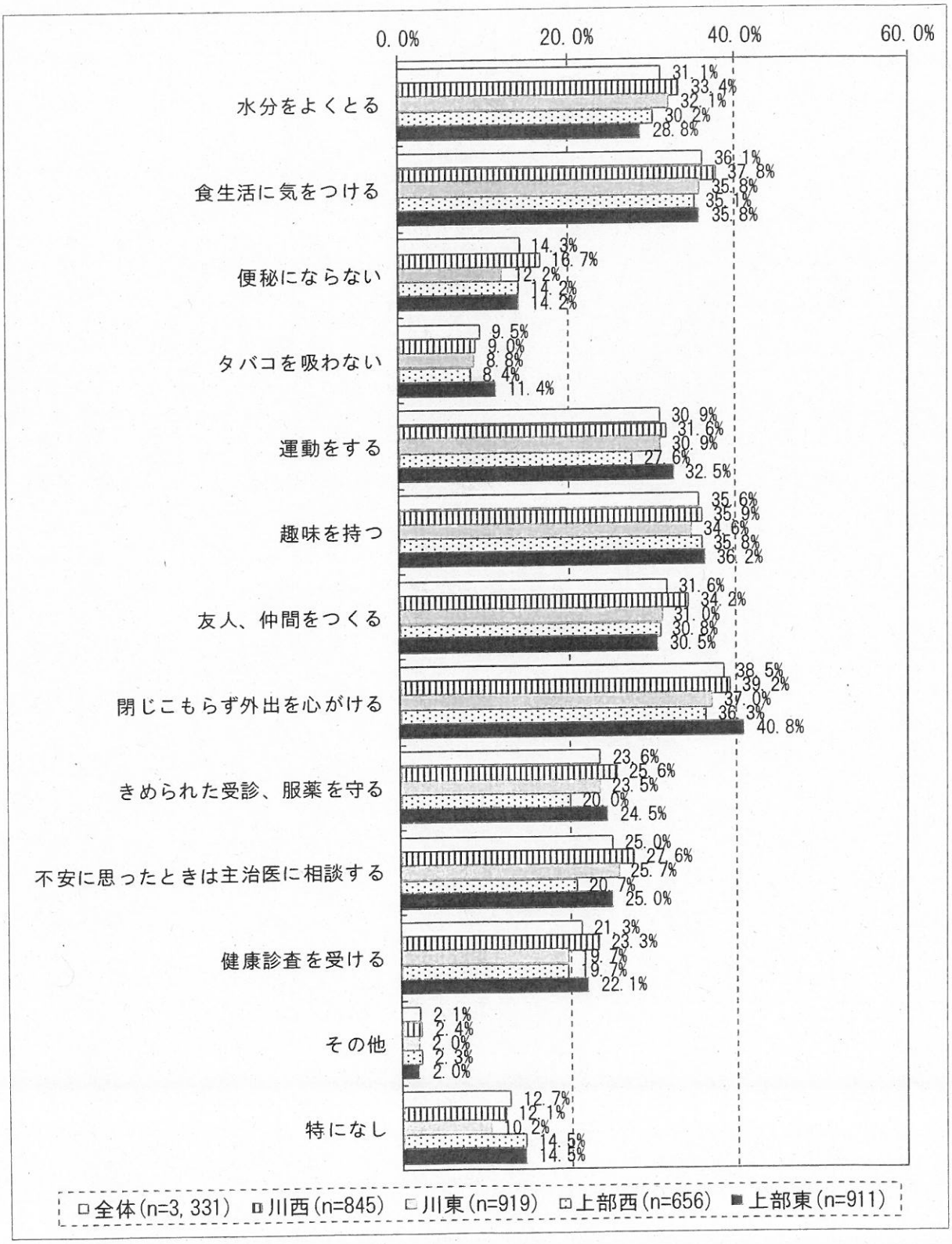
圏域別にみるとすべての圏域で「早期発見・早期受診が大切である」、「お薬や対応の仕方で進行を遅らせることができる」の順で高くなっており、次いで、川西圏域、上部西圏域では「認知症と物忘れは異なる」、川東圏域、上部東圏域では「脳の病気である」が高くなっています。



⑬認知症予防の取り組みについて

認知症を予防するために、何か取り組んでいることをたずねると、新居浜市全体では「閉じこもらず外出を心がける」（38.5%）、「食生活に気をつける」（36.1%）、「趣味を持つ」（35.6%）と答えた割合が高くなっています。

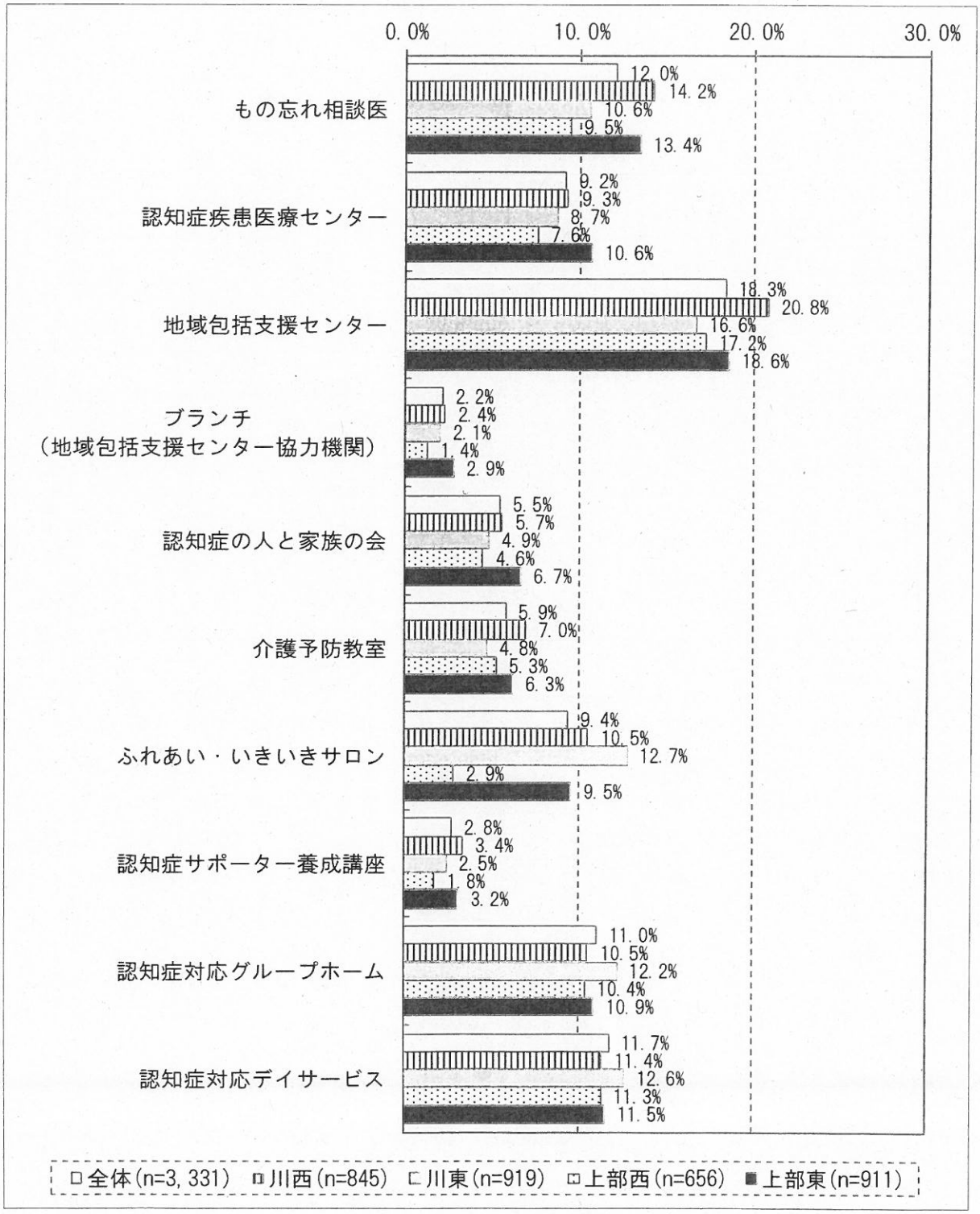
圏域別にみるとすべての圏域で「閉じこもらず、外出を心がける」が最も高く、次いで、川西圏域、川東圏域では「食生活に気を付ける」、「趣味を持つ」、上部西圏域、上部東圏域では「趣味を持つ」、「食生活に気を付ける」となっています。



⑭認知症の相談場所や事業の認知度について

認知症の相談場所や事業について、知っているものをたずねると、「地域包括支援センター」と答えた割合が18.3%と最も高く、次いで、「もの忘れ相談医」（12.0%）、「認知症対応デイサービス」（11.7%）の順となっています。

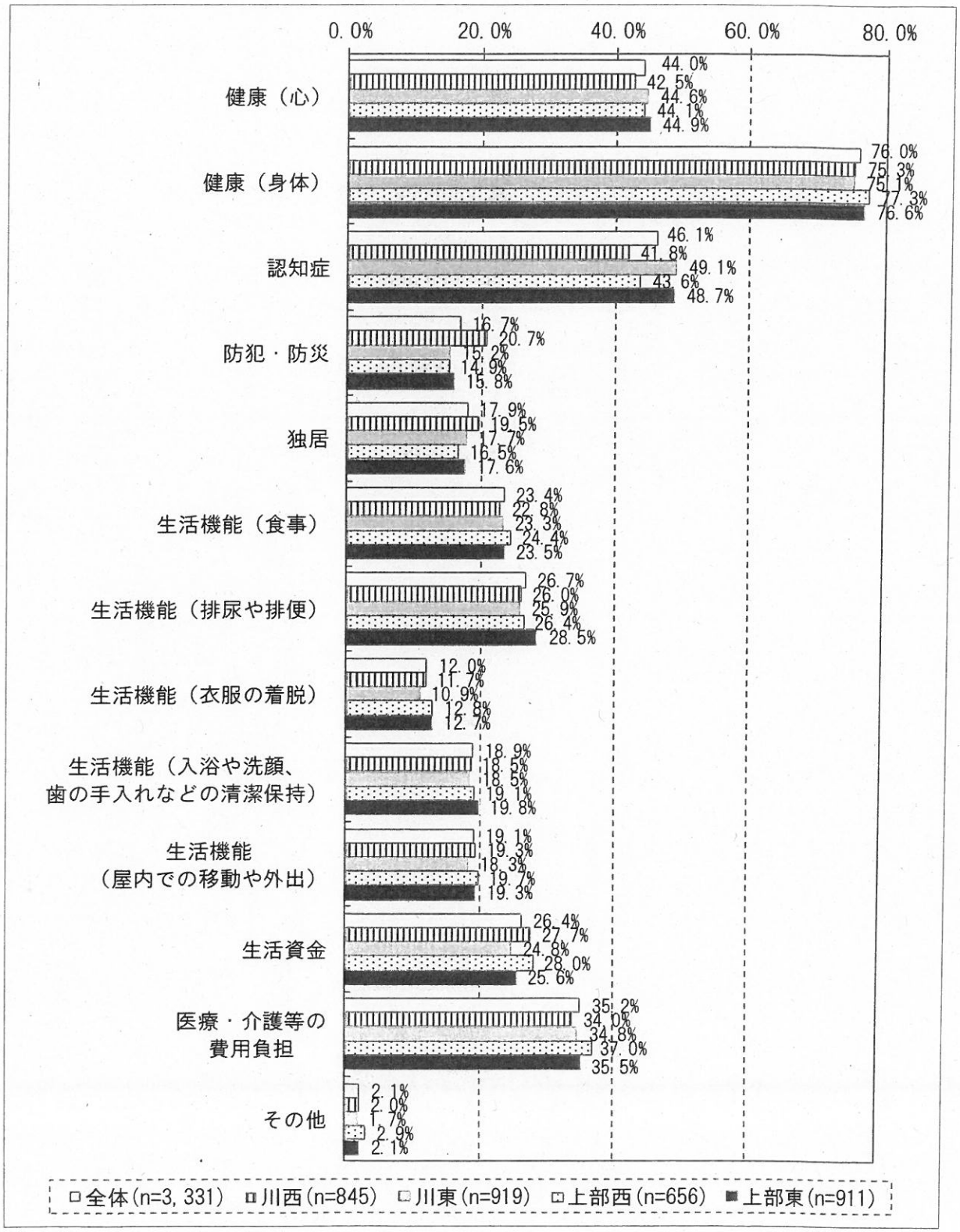
圏域別にみると、すべての圏域で「地域包括支援センター」と答えた割合が高くなっています。また、「地域包括支援センター」、「介護予防教室」以外の項目では上部西圏域の認知度が最も低くなっています。特に、「ふれあい・いきいきサロン」では他の3圏域が約10%を占めていますが、上部西圏域では2.9%となっています。



⑮現在もしくは今後に不安を感じることについて

今の生活を続ける上で、現在、もしくは今後、不安に感じることをたずねると、「健康（身体）」と答えた割合が 76.0%と最も高くなっています。次いで、「認知症」（46.1%）、「健康（心）」（44.0%）の順となっています。

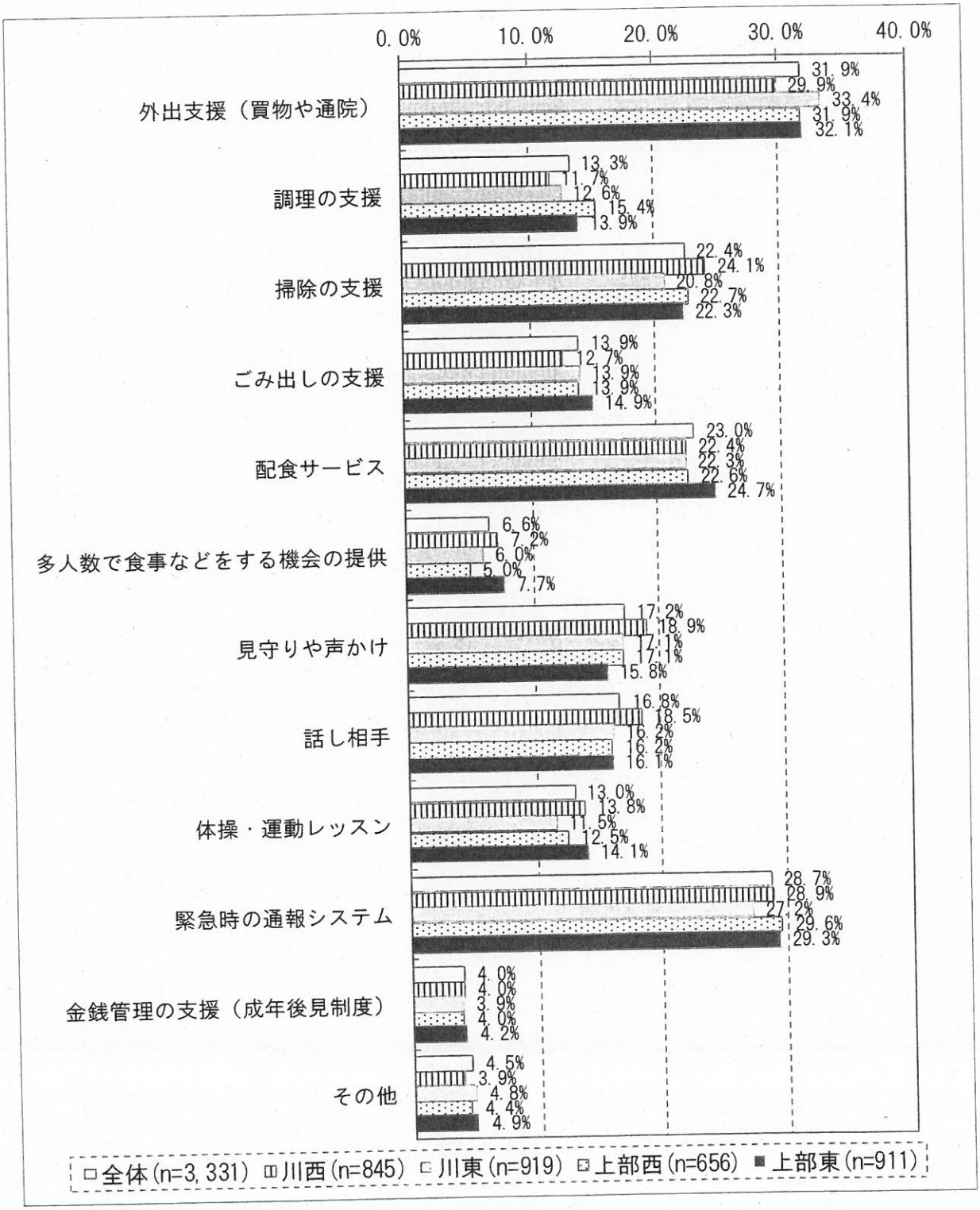
圏域別にみると、すべての圏域で「健康（身体）」と答えた割合が最も高くなっています。また、「一人暮らし」が最も多い川西圏域では他圏域と比べて「防犯・防災」、「独居」、「生活資金」と答えた割合が高くなっています。



⑯現在もしくは今後に利用したいサービス・取り組みについて

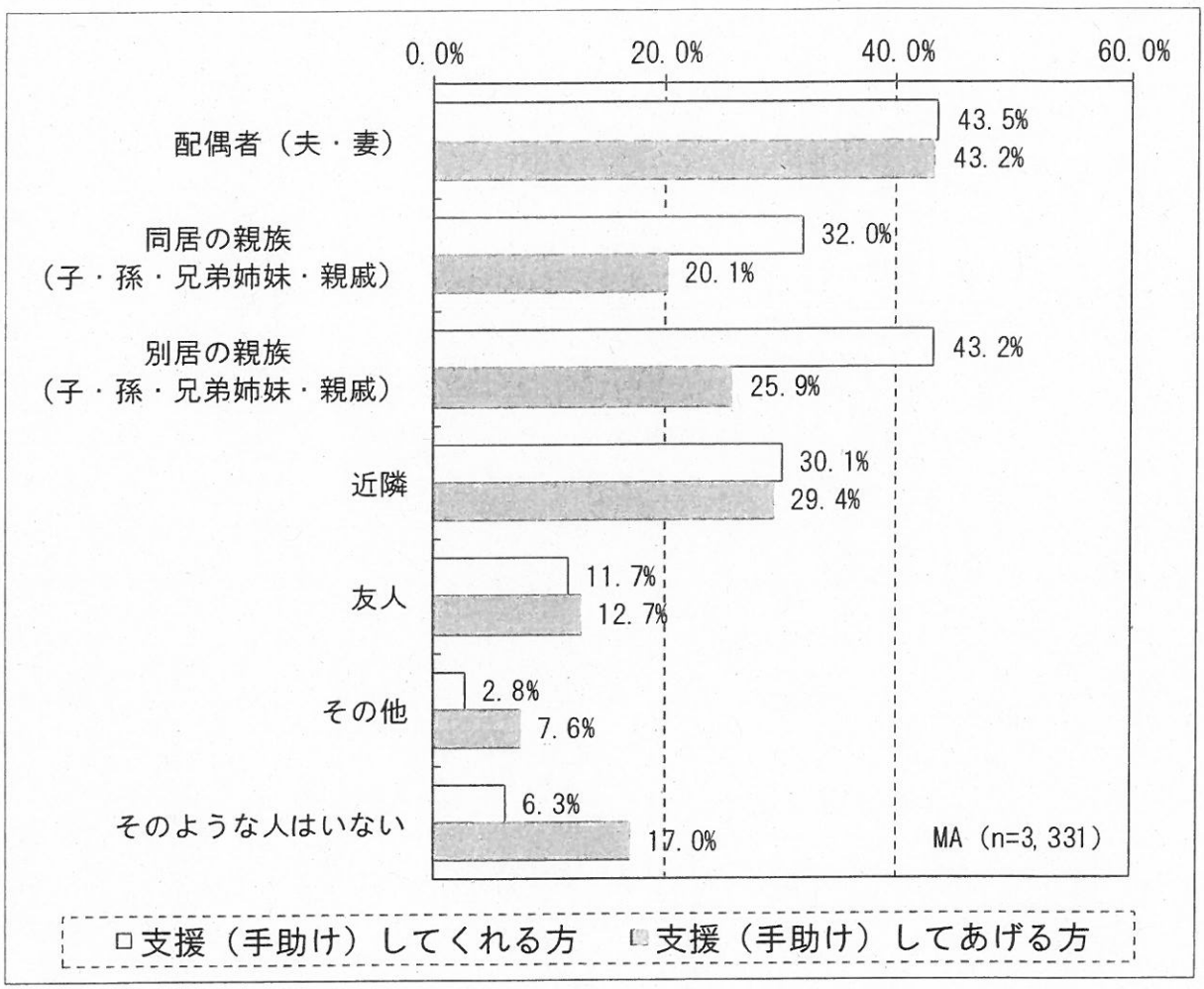
今の生活を続ける上で、現在、もしくは今後、利用したいと感じるサービス・取り組みをたずねると、「外出支援（買物や通院）」と答えた割合が 31.9%と最も高くなっており、次いで、「緊急時の通報システム」（28.7%）、「配食サービス」（23.0%）、「掃除の支援」（22.4%）の順となっています。

圏域別にみると、すべての圏域で「外出支援（買い物や通院）」、「緊急時の通報システム」の順で高くなっています。また、他圏域と比べて川西圏域では「掃除の支援」、川東圏域では「外出支援（買物や通院）」、上部西圏域では「調理の支援」、上部東圏域では「配食サービス」と答えた割合が高くなっています。



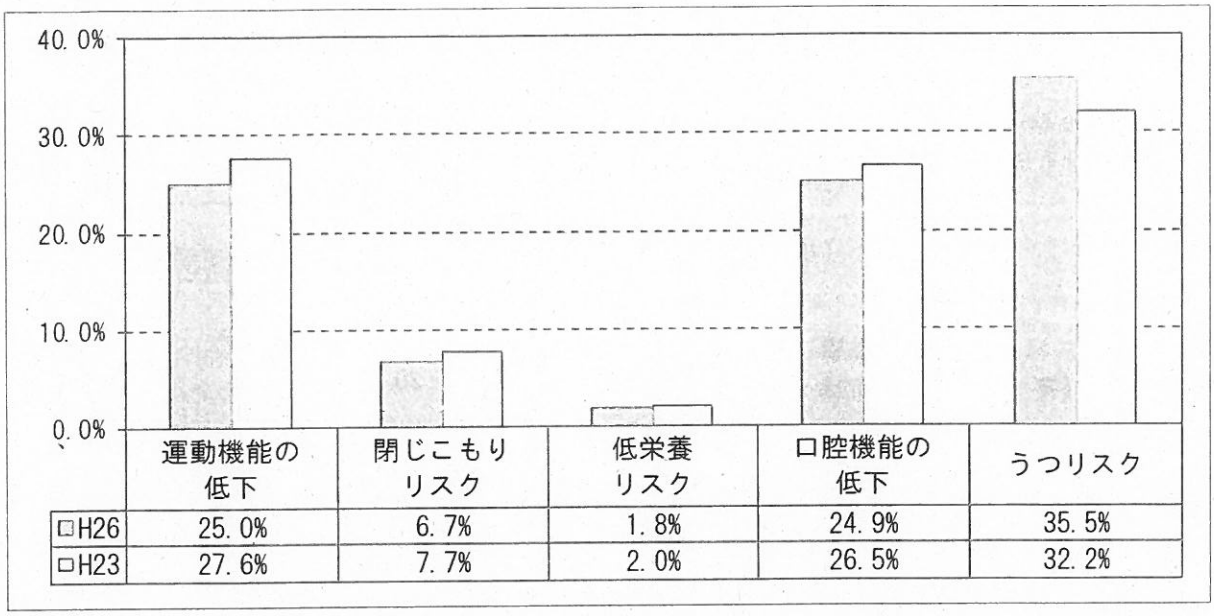
⑰避難する際に支援（手助け）してくれる方・してあげる方について

災害で避難する際に支援（手助け）してくれる方をたずねると、「配偶者」（43.5%）、「別居の親族」（43.2%）と答えた割合が高くなっていますが、支援（手助け）してあげる方は「配偶者」（43.2%）、「近隣」（29.4%）が高くなっています。また、「そのような人はいない」と答えた割合をみると、支援（手助け）してくれる方は6.3%、支援（手助け）してあげる方は17.0%を占めています。

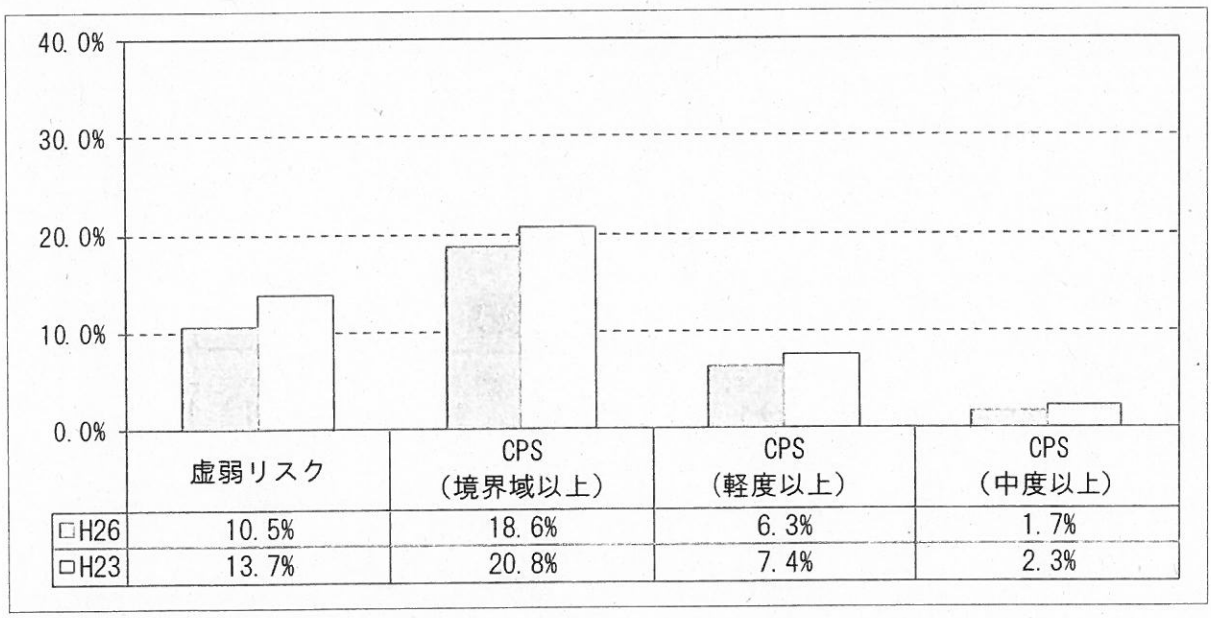


(5)平成23年度調査との比較※

今回の調査結果を平成23年度の調査結果と比較してみると、うつリスクのみ平成23年度の結果をわずかに上回っています。



	運動機能の低下	閉じこもりリスク	低栄養リスク	口腔機能の低下	うつリスク
□H26	25.0%	6.7%	1.8%	24.9%	35.5%
□H23	27.6%	7.7%	2.0%	26.5%	32.2%



	虚弱リスク	CPS（境界域以上）	CPS（軽度以上）	CPS（中度以上）
□H26	10.5%	18.6%	6.3%	1.7%
□H23	13.7%	20.8%	7.4%	2.3%

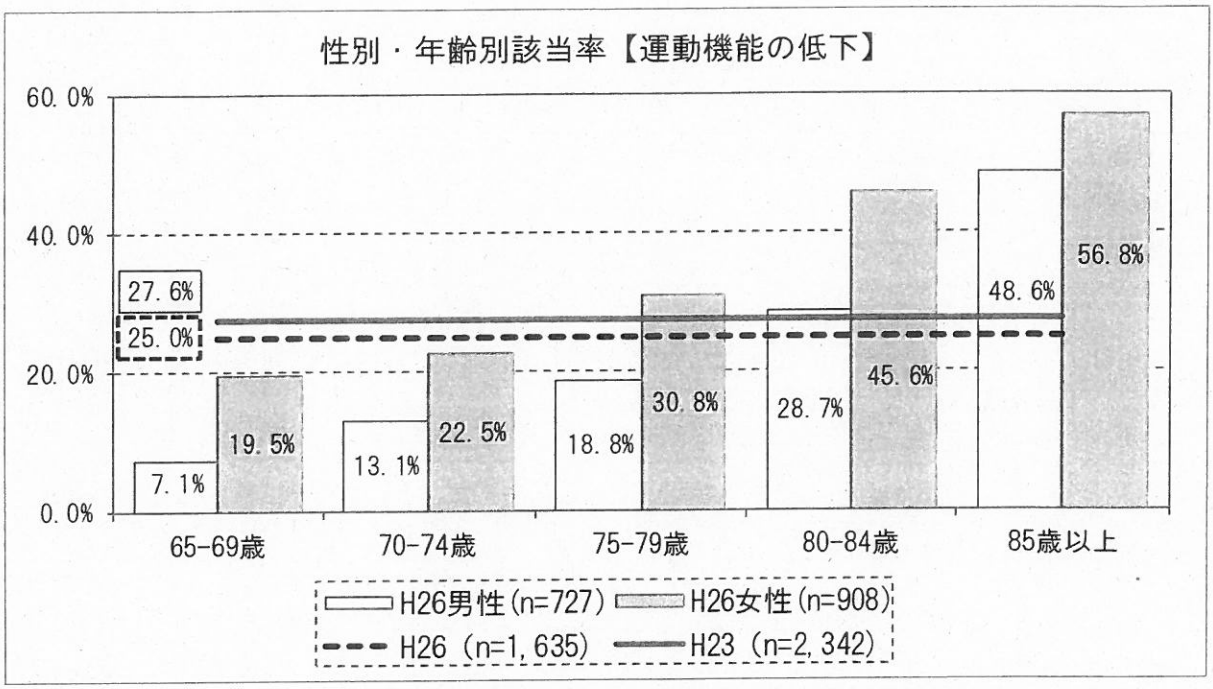
※平成２６年度に実施した調査と平成２３年度に実施した調査の集計方法を合わせるため、対象者から認定者、性別・年齢不詳者、各判定の不明者を除いて再計算しています。

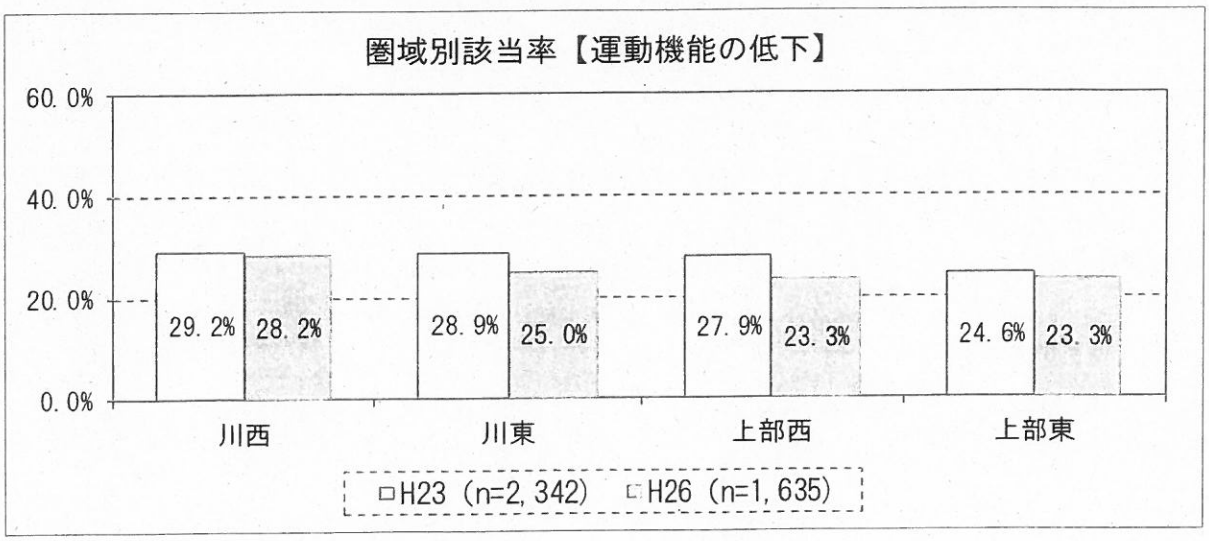
①運動機能の低下について（基本チェックリスト）

基本チェックリスト判定に基づく運動機能の低下の評価結果をみると、平成 26 年度全体では 25.0%の該当率となっており、平成 23 年度の 27.6%を 2.6%下回っています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて運動機能が低下傾向となっており、男性・女性ともに 85 歳以上で運動機能が低下している方が最も多く、男性 48.6%、女性 56.8%となっています。また、どの年齢においても、男性より女性の運動機能が低下していることがわかります。

圏域別にみると、川西圏域が 28.2%、川東圏域が 25.0%、上部西圏域、上部東圏域が 23.3%となっており、川西圏域に運動機能が低下している方が多くなっています。また、いずれの圏域も平成 23 年度の結果を下回っています。



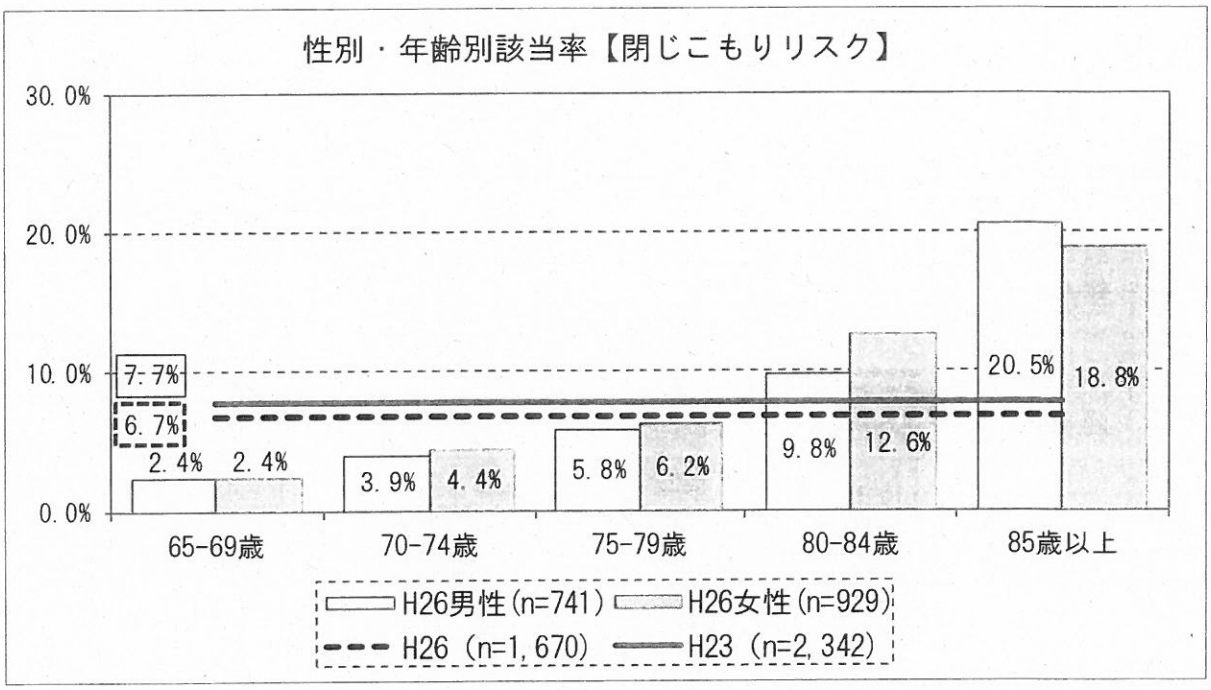


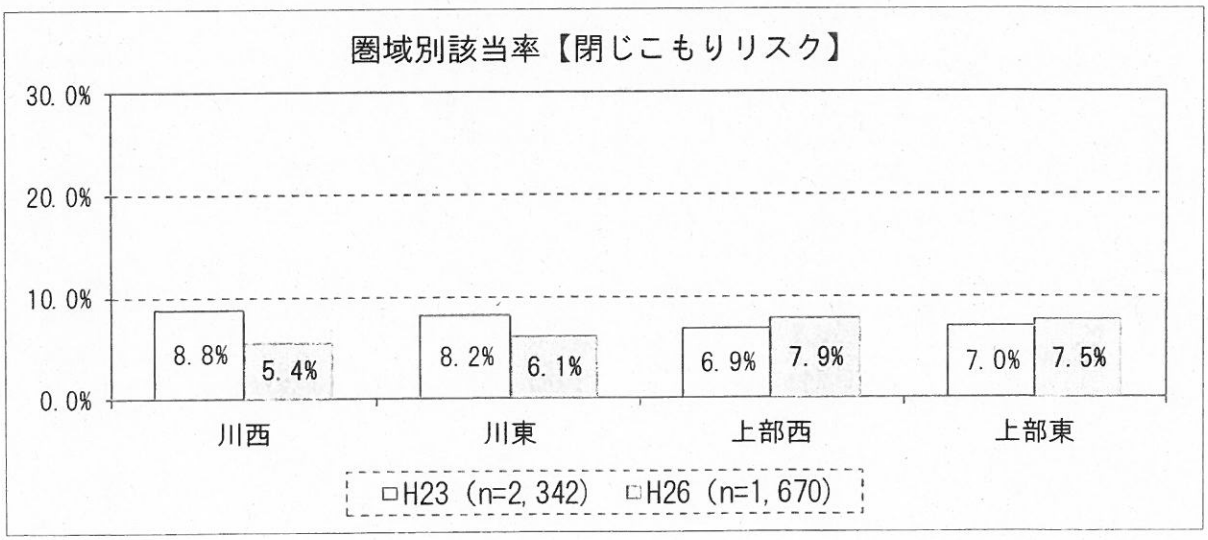
②閉じこもりリスクについて（基本チェックリスト）

基本チェックリスト判定に基づく閉じこもりリスクの評価結果をみると、平成 26 年度全体では6.7%の該当率となっており、平成23年度の7.7%を1.0%下回っています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて閉じこもり傾向となっており、男性・女性ともに85歳以上で最も高く、男性20.5%、女性18.8%となっています。また、85歳未満では男性より女性の閉じこもりリスクが高いことがわかります。

圏域別にみると、川西圏域が5.4%、川東圏域が6.1%、上部西圏域が7.9%、上部東圏域が7.5%となっており、上部西圏域に閉じこもりリスクが最も高くなっています。また、上部西圏域、上部東圏域は平成23年度の結果をわずかに上回っています。



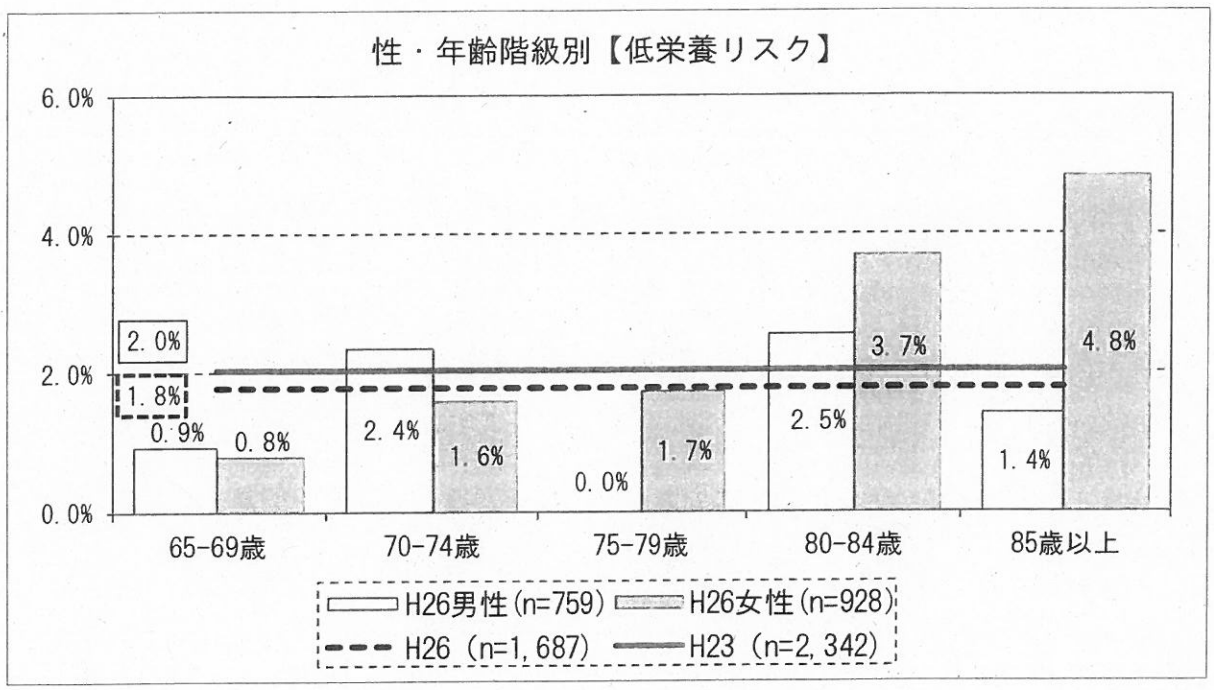


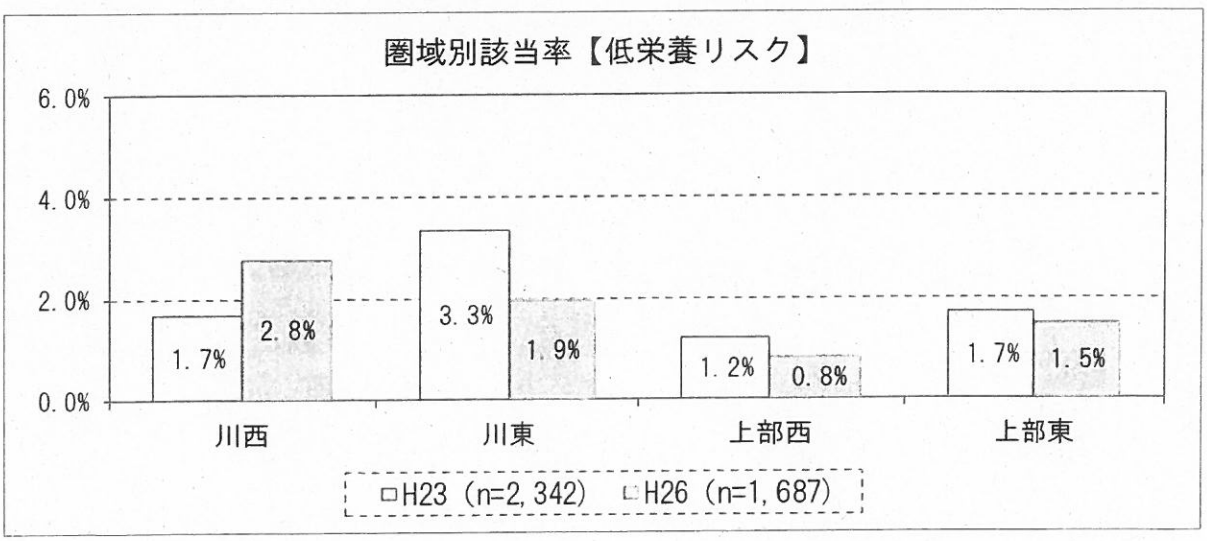
③低栄養リスクについて（基本チェックリスト）

基本チェックリスト判定に基づく低栄養リスクの評価結果をみると、平成 26 年度全体では 1.8%の該当率となっており、平成 23 年度の 2.0%を 0.2%下回っています。

性別・年齢別にみると、男性は 80-84 歳（2.5%）、女性は 85 歳以上（4.8%）において低栄養の方が最も高くなっていますが、いずれも低栄養リスクのある方は 5%未満と少なくなっています。また、75 歳以下では女性より男性、75 歳以上では男性より女性に低栄養リスクが高いことがわかります。

圏域別にみても、川西圏域が 2.8%、川東圏域が 1.9%、上部西圏域が 0.8%、上部東圏域が 1.5%と、いずれの圏域も低栄養の方は少なくなっています。また、川西圏域のみ平成 23 年度の結果を上回っています。



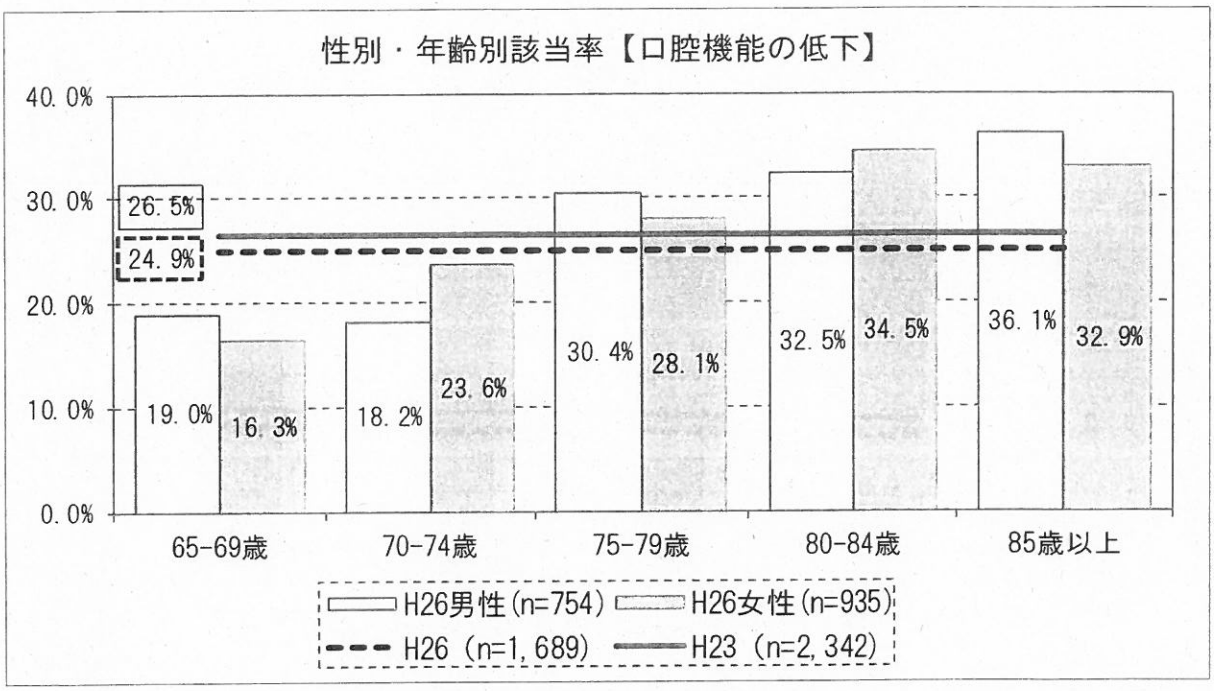


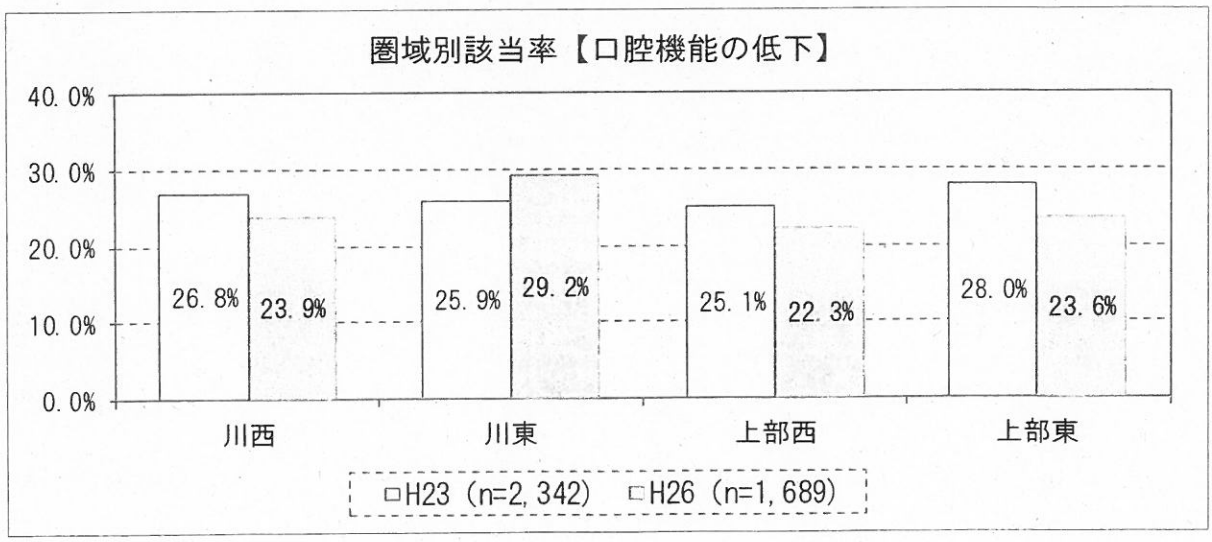
④口腔機能の低下について（基本チェックリスト）

基本チェックリスト判定に基づく口腔機能の低下の評価結果をみると、平成 26 年度全体では 24.9%の該当率となっており、平成 23 年度の 26.5%を 1.6%下回っています。

性別・年齢別にみると、男性（70-74 歳を除く）・女性（85 歳以上を除く）ともに年齢が上がるにつれて口腔機能が低下傾向となっており、男性は 85 歳以上（36.1%）、女性は 80-84 歳（34.5%）で最も多くなっています。

圏域別にみると、川西圏域が 23.9%、川東圏域が 29.2%、上部西圏域が 22.3%、上部東圏域が 23.6%となっており、川東圏域に口腔機能が低下している方が多くなっています。また、川東圏域のみ平成 23 年度の結果を上回っています。



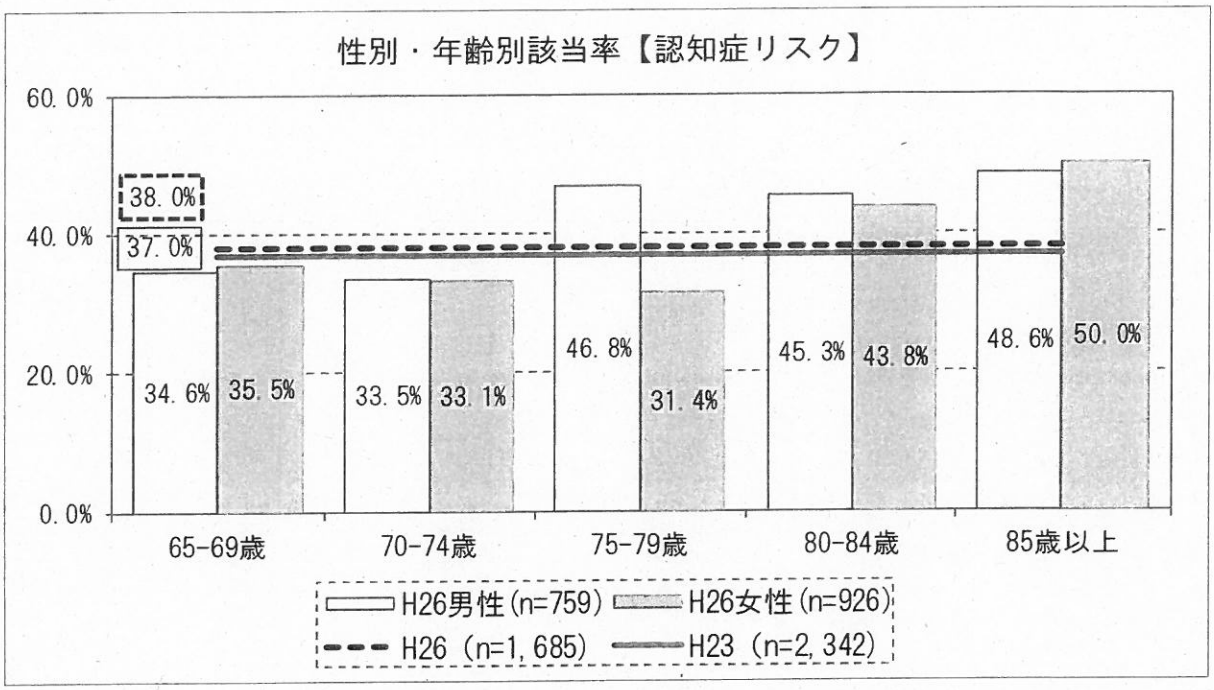


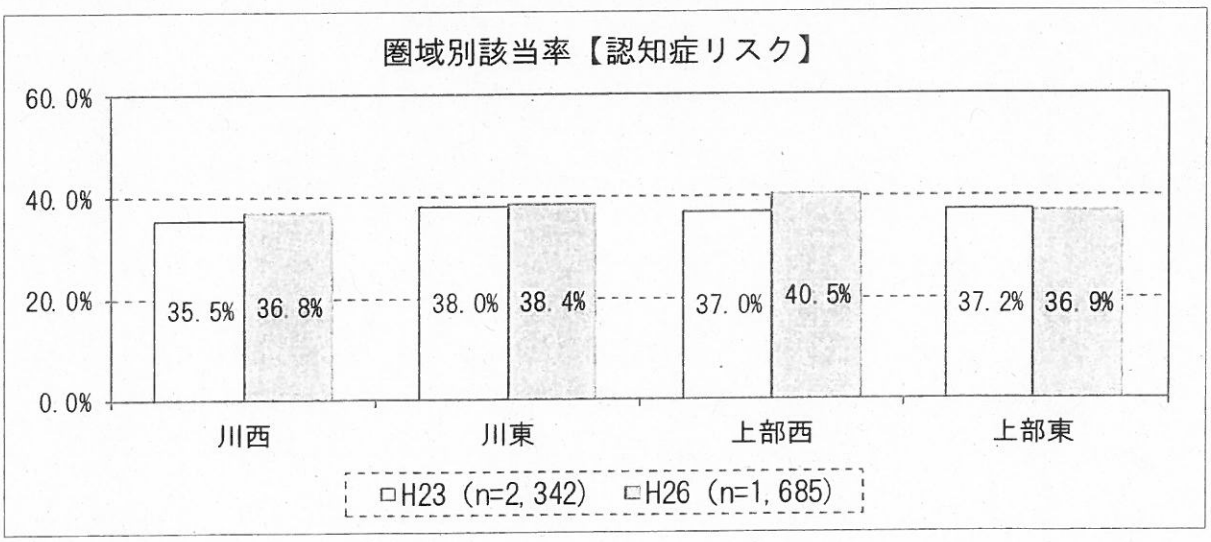
⑤認知症リスクについて（基本チェックリスト）

基本チェックリスト判定に基づく認知症リスクの評価結果をみると、平成 26 年度全体では 38.0%の該当率となっており、平成 23 年度の 37.0%を 1.0%上回っています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに 85 歳以上で最も該当率が高く、男性 48.6%、女性 50.0%と約半数の方の認知症リスクが高くなっています。

圏域別にみると、川西圏域が 36.8%、川東圏域が 38.4%、上部西圏域が 40.5%、上部東圏域が 36.9%となっており、上部西圏域に認知症リスクの高い方が多くなっています。また、上部東圏域を除くすべての圏域で平成 23 年度の結果を上回っています。



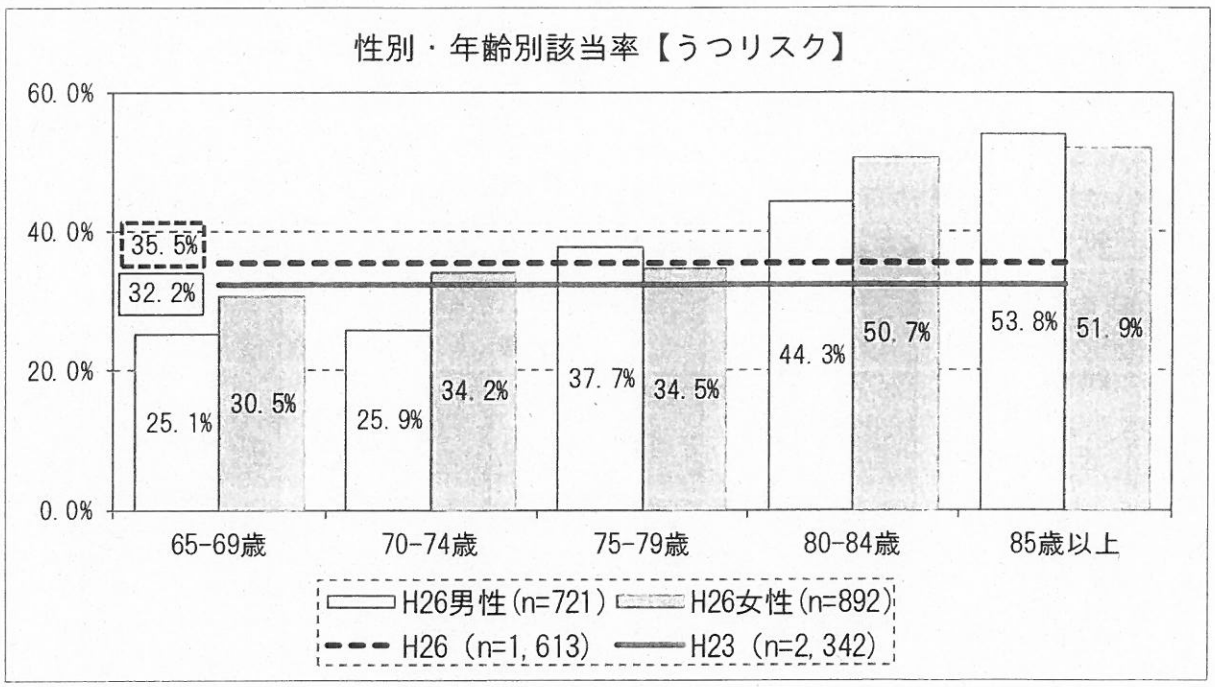


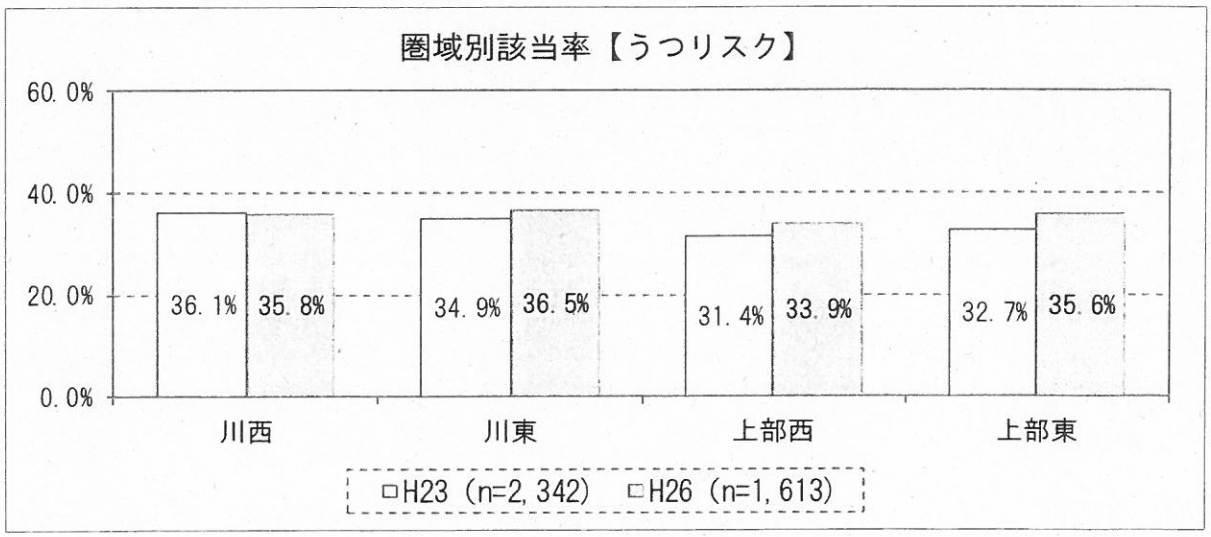
⑥うつリスクについて（基本チェックリスト）

基本チェックリスト判定に基づく、うつリスクの評価結果をみると、平成 26 年度全体では 35.5%の該当率となっており、うつリスクは平成 23 年度の 32.2%を 3.3%上回っています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれてうつリスクが高くなっており、85 歳以上で最も高く、男性 53.8%、女性 51.9%となっています。

圏域別にみると、川西圏域が 35.8%、川東圏域が 36.5%、上部西圏域が 33.9%、上部東圏域が 35.6%となっており、川東圏域にうつリスクの高い方が多くなっています。また、川西圏域を除くすべての圏域で平成 23 年度の結果を上回っています。



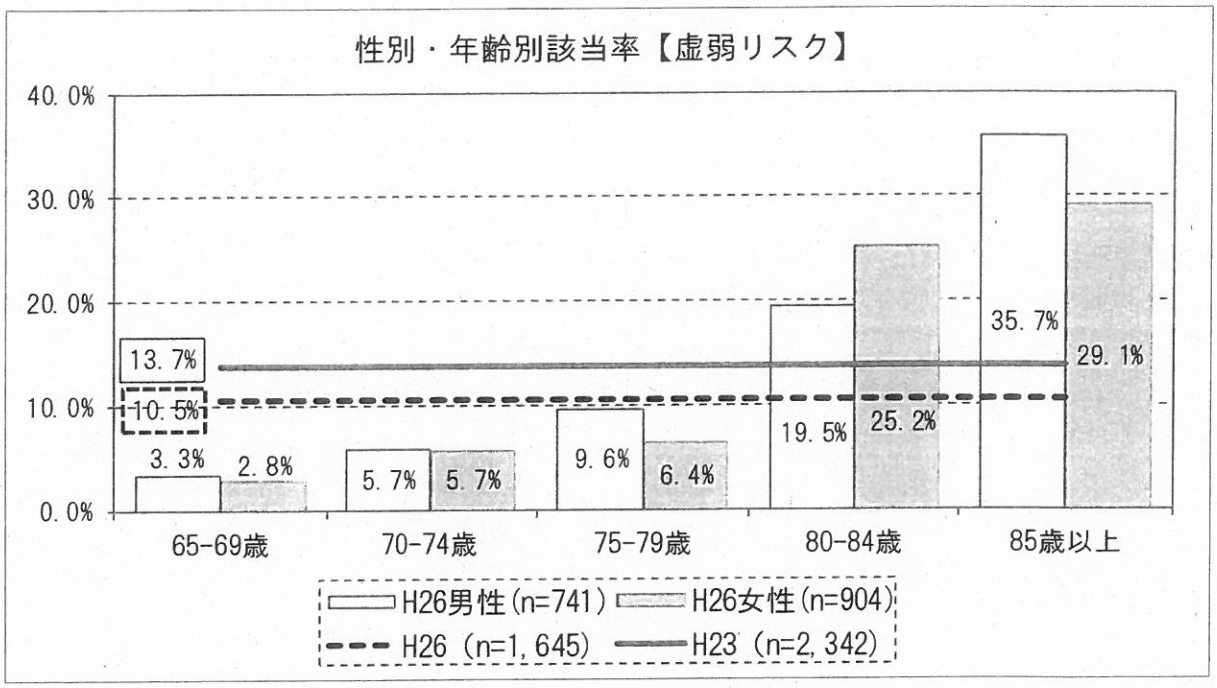


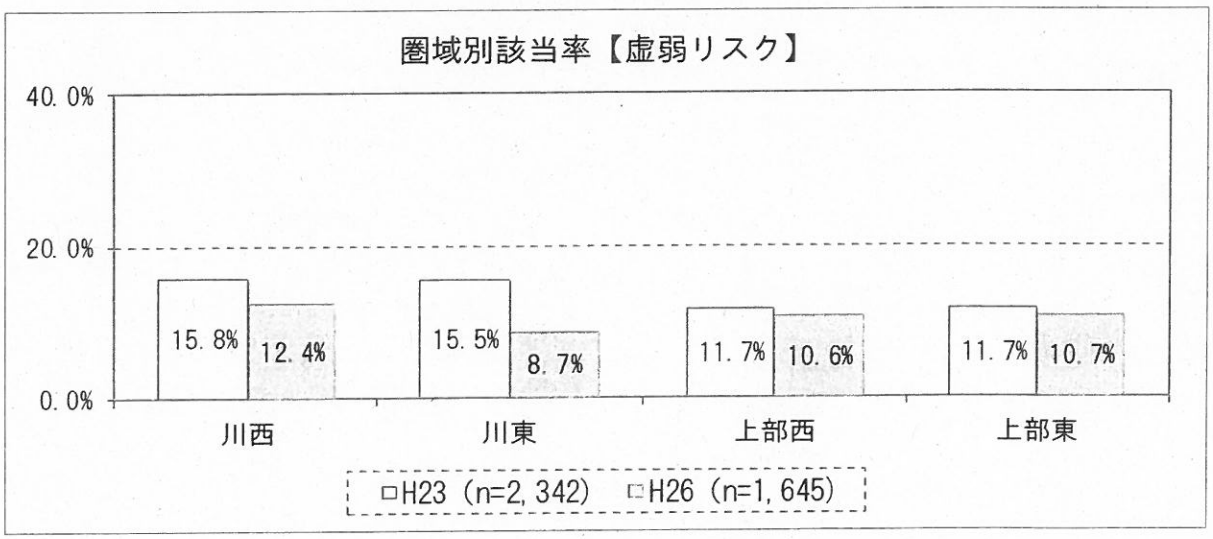
⑦虚弱リスクについて（基本チェックリスト）

基本チェックリスト判定に基づく、虚弱リスクの評価結果をみると、平成 26 年度全体では 10.5%の該当率となっており、平成 23 年度の 13.7%を 3.2%下回っています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて虚弱リスクのある方が増加しており、男性・女性ともに 85 歳以上で最も高く、男性 35.7%、女性 29.1%となっています。また、75 歳以上では女性より男性に虚弱リスクの高い方が多いことがわかります。

圏域別にみると、川西圏域が 12.4%、川東圏域が 8.7%、上部西圏域が 10.6%、上部東圏域が 10.7%となっており、川西圏域に虚弱リスクの高い方が多いことがわかります。また、すべての圏域で平成 23 年度の結果を下回っていますが、特に川東圏域は 6.8%低下しています。



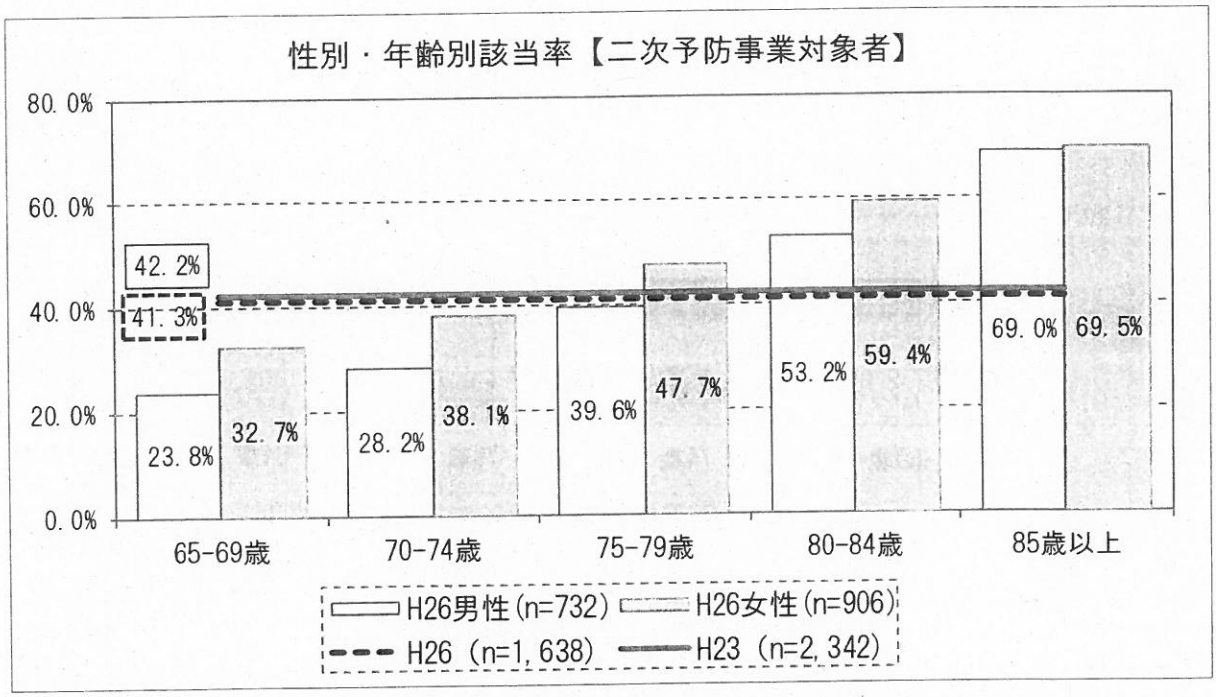


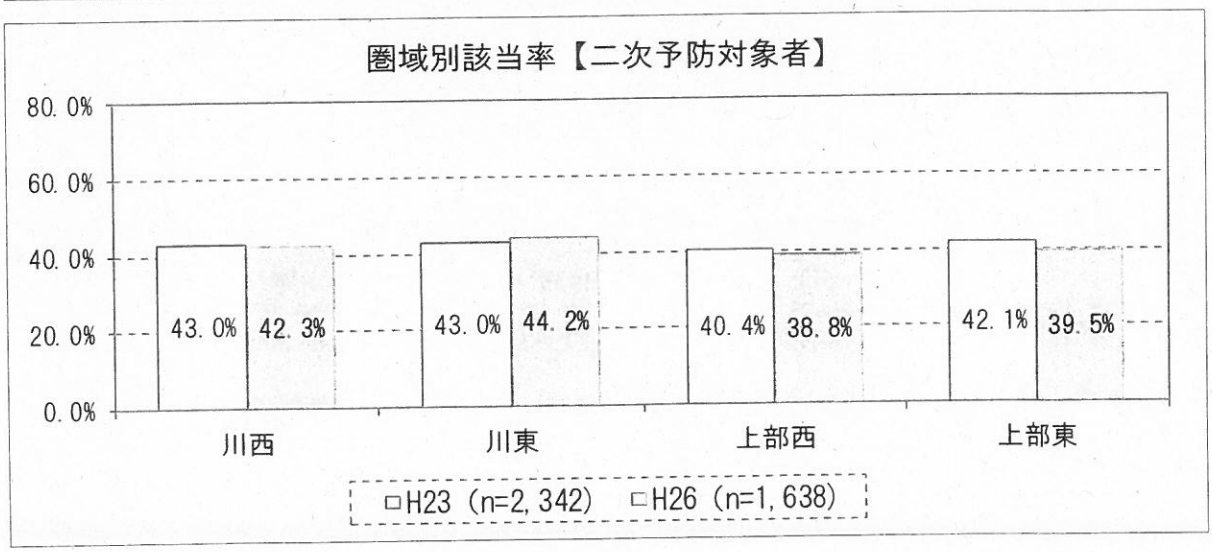
⑧二次予防事業(介護予防事業)対象者について

基本チェックリスト判定に基づく、二次予防対象者の評価結果をみると、平成 26 年度全体では 41.3%の該当率となっており、二次予防対象者の出現率は平成 23 年度の 42.2%を 0.9%下回っています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて二次予防対象者の出現率が高くなっており、男性・女性ともに 85 歳以上で最も高く、男性 69.0%、女性 69.5%となっています。また、どの年齢においても、男性より女性の二次予防対象者の出現率が高くなっています。

圏域別にみると、川西圏域が 42.3%、川東圏域が 44.2%、上部西圏域が 38.8%、上部東圏域が 39.5%となっており、川東圏域に二次予防の対象者が多くなっています。また、川東圏域を除くすべての圏域で平成 23 年度の結果を下回っています。



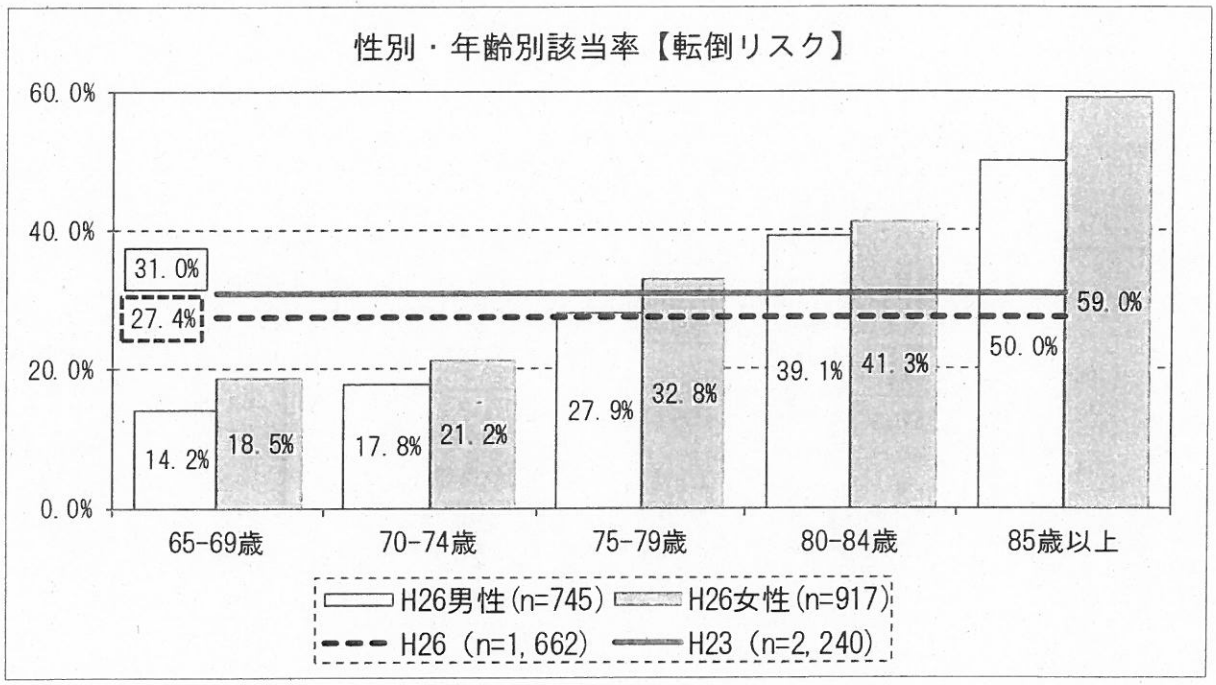


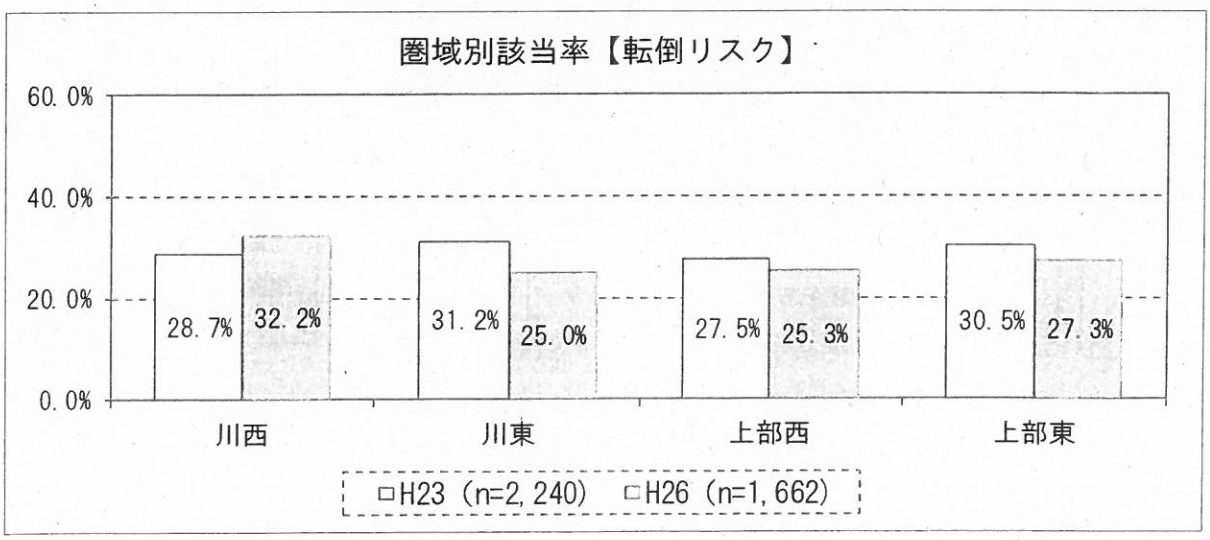
⑨転倒リスクについて（基本チェックリスト等）

基本チェックリスト判定等に基づく転倒リスクの評価結果をみると、平成 26 年度全体では 27.4%となっており、平成 23 年度の 31.0%を 3.6%下回っています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて転倒リスクが高くなっており、85 歳以上で男性は 50.0%、女性は 59.0%となっています。また、どの年齢においても、男性より女性の転倒リスクが高いことがわかります。

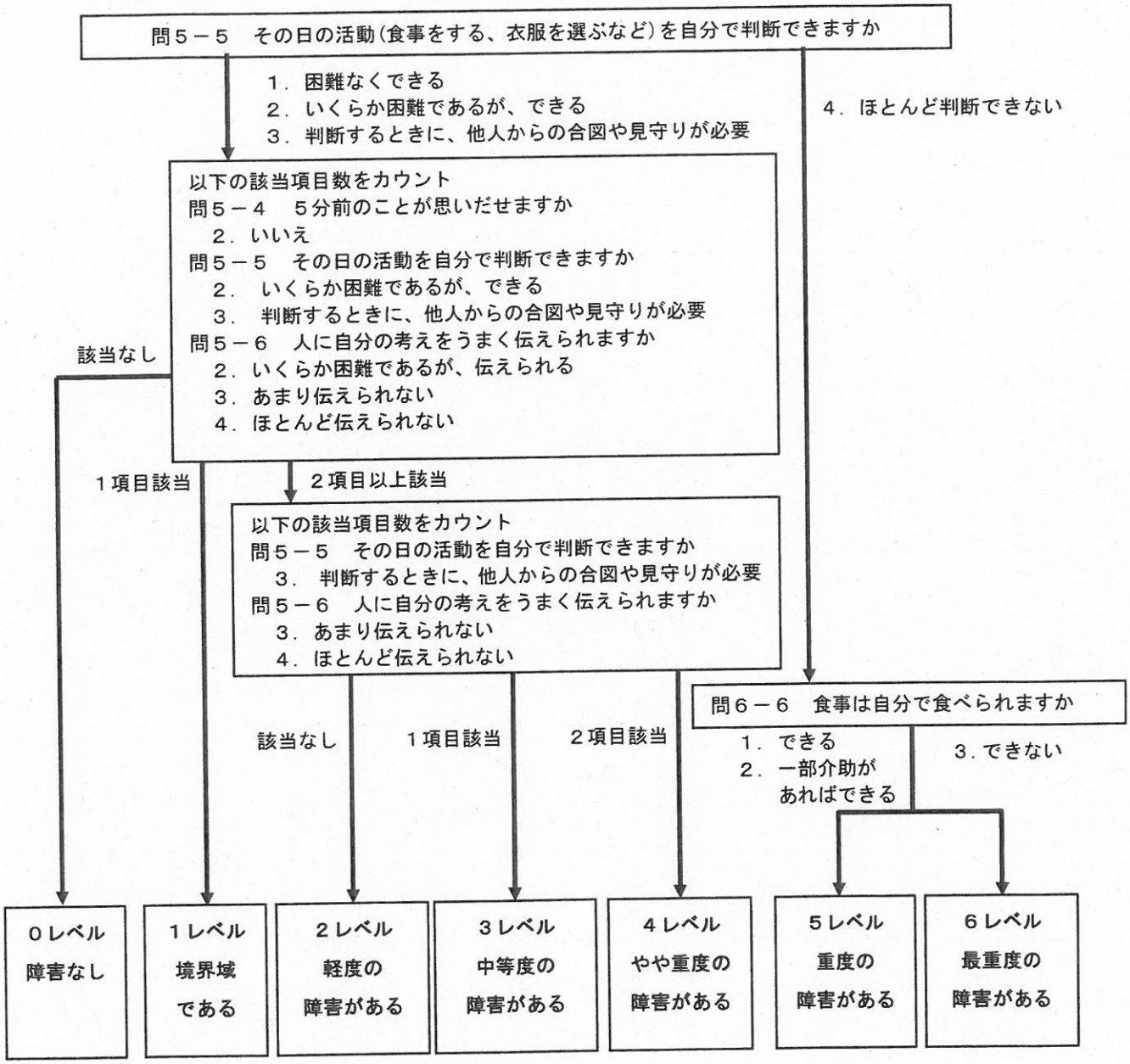
圏域別にみると、川西圏域が 32.2%、川東圏域が 25.0%、上部西圏域が 25.3%、上部東圏域が 27.3%となっており、川西圏域に転倒リスクの高い方が多くなっています。また、川西圏域のみ平成 23 年度の結果を上回っています。





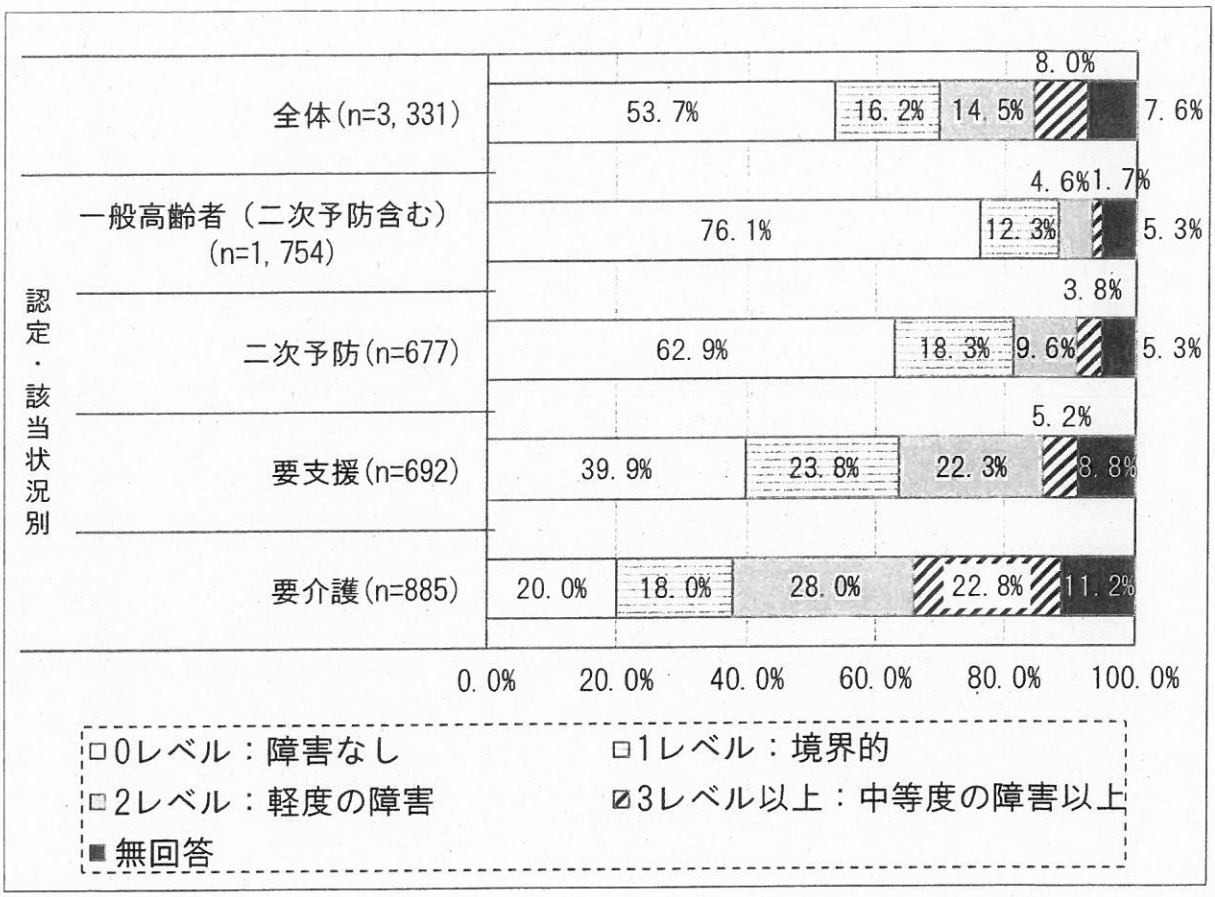
⑩認知機能障害程度（CPS）認知症リスクについて

今回の調査には、認知機能の障害程度の指標が設けられています。設問に対する回答内容により、０レベル（障害なし）から６レベル（最重度の障害がある）まで評価可能となっています。

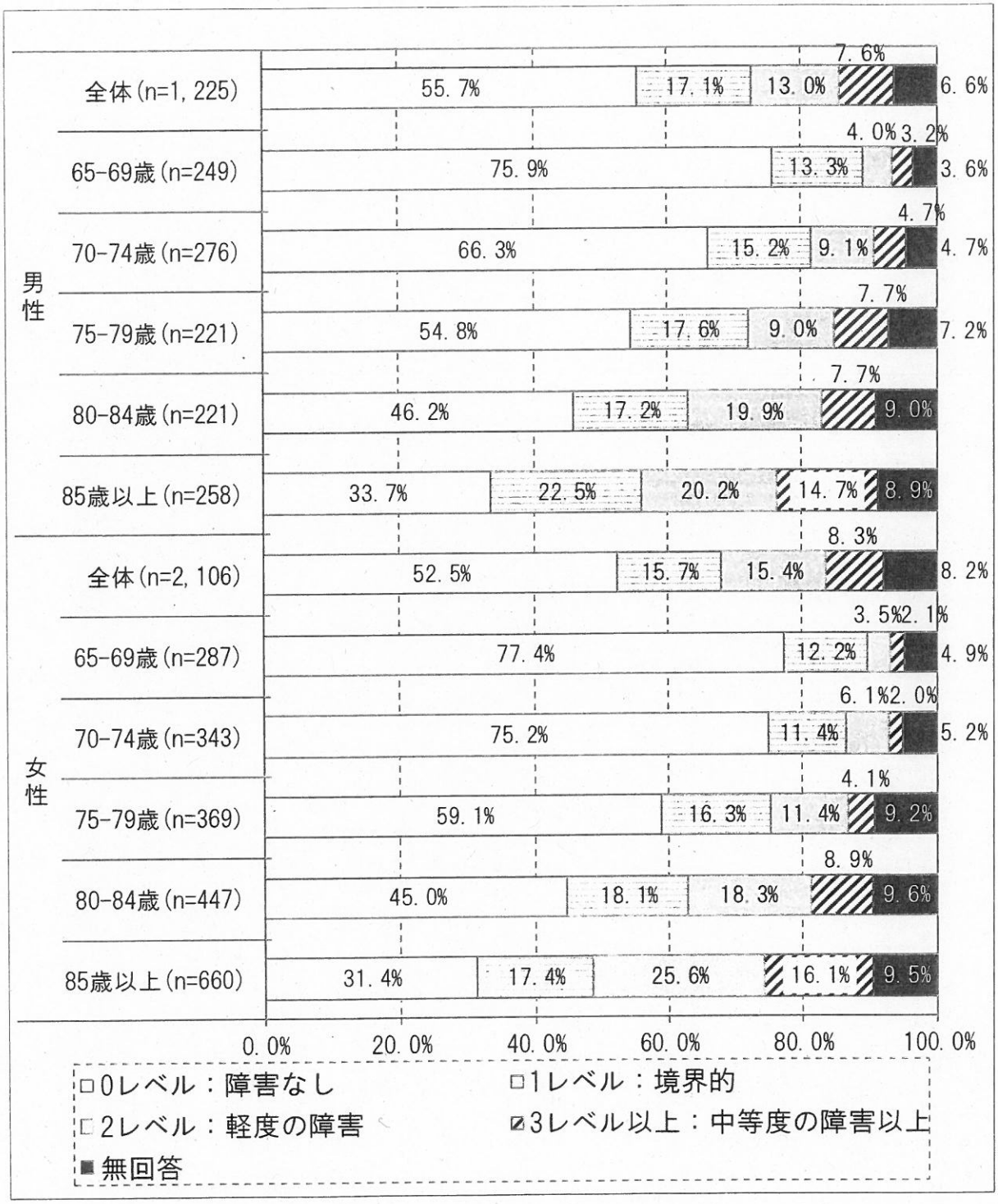


認知機能障害程度の評価結果をみると、1 レベル以上の障害程度と評価される該当率は全体では 38.7%となっており、3 レベル以上は 8.0%となっています。

1 レベル以上の障害程度の方を認定・該当状況別にみると、要介護状態になるにつれて増加しており、「要介護」では 68.8%を占めています。

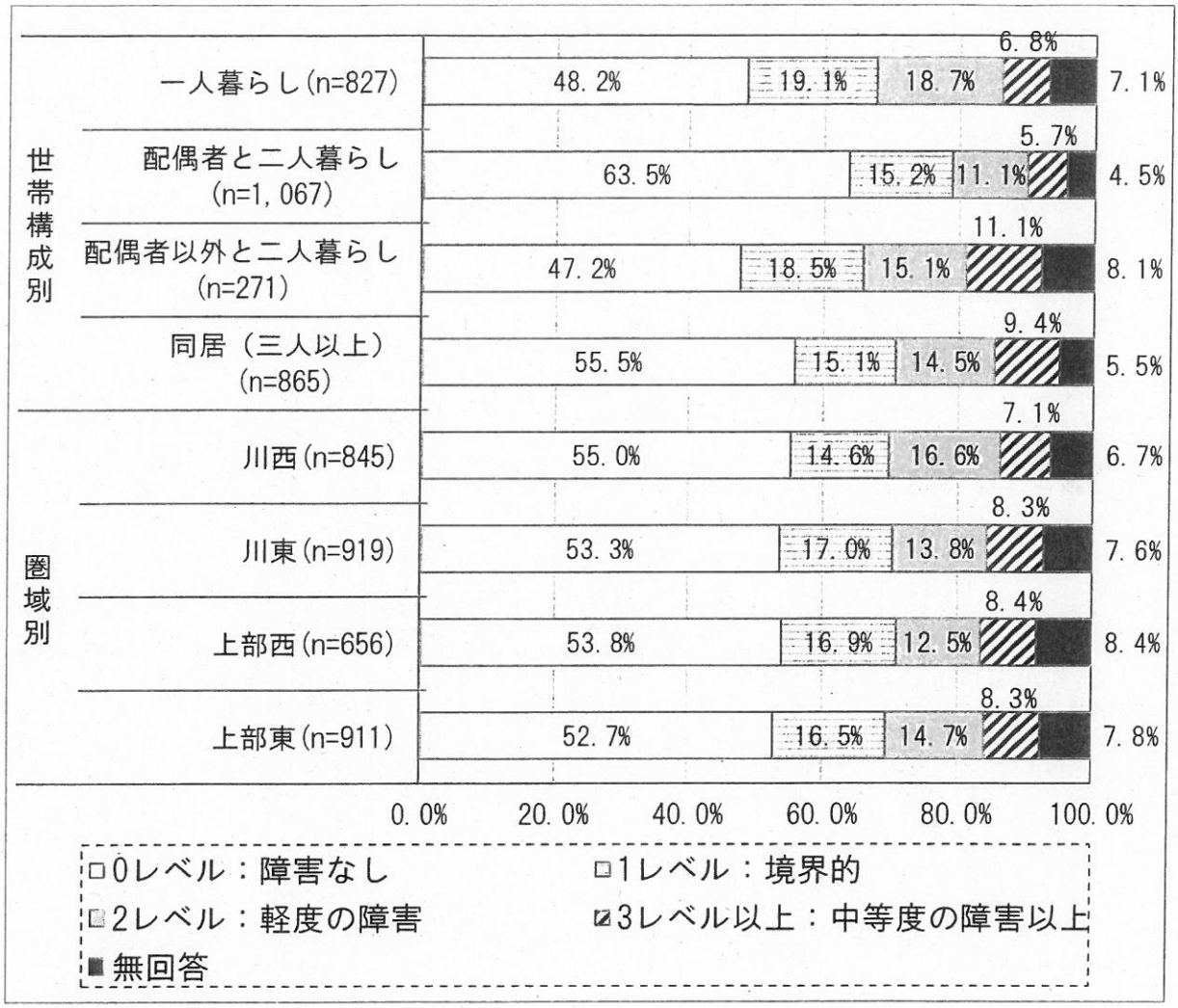


1レベル以上の障害程度の方の割合を性別・年齢別にみると、男性は37.7%、女性は39.4%と女性の方が若干高くなっています。男性・女性ともに年齢が上がるにつれて該当者が増加傾向となっており、85歳以上で男性57.4%、女性59.1%を占めています。



1 レベル以上の障害程度の方を世帯構成別にみると、「一人暮らし」（44.6%）、「配偶者以外と二人暮らし」（44.7%）の割合が高くなっています。

圏域別にみると、川西圏域が 38.3%、川東圏域が 39.1%、上部西圏域が 37.8%、上部東圏域が 39.5%となっており、上部東圏域に 1 レベル以上の方が多くなっています。



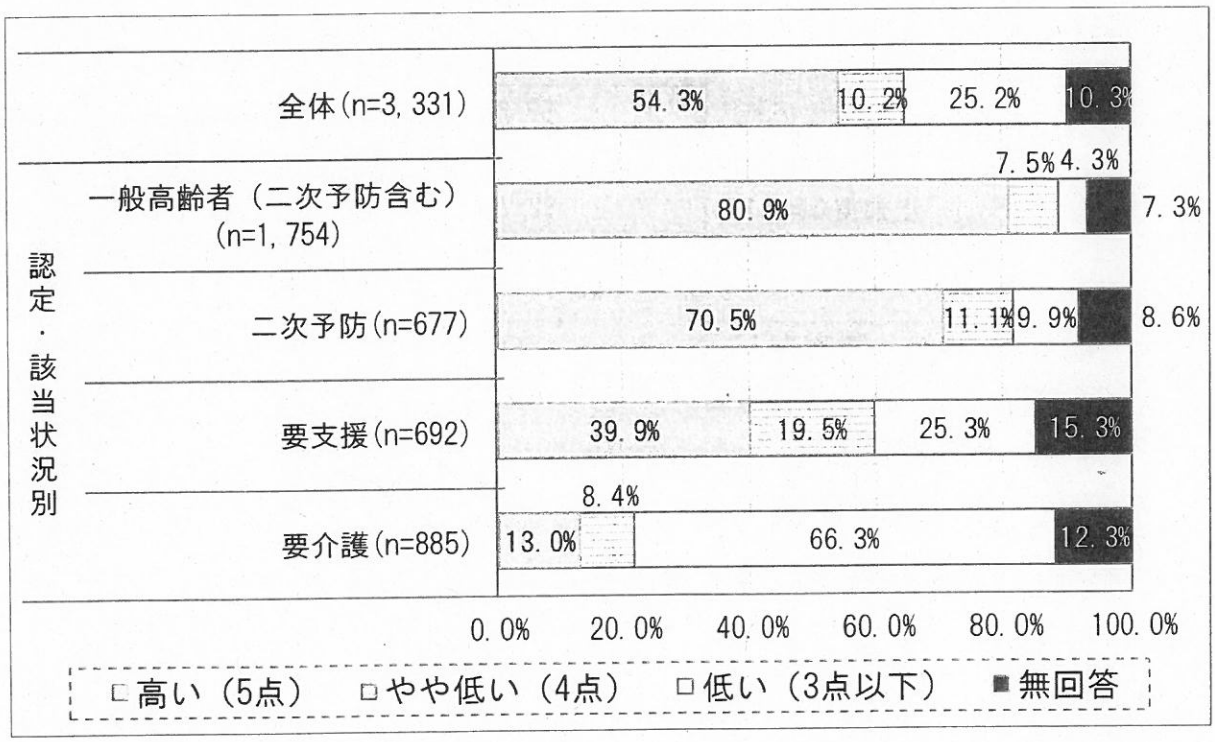
⑪手段的自立度(IADL)について

手段的自立度（ＩＡＤＬ）に関する設問５項目の配点をそれぞれ１点として、５点満点で評価し、５点を「高い」、４点を「やや低い」、３点以下を「低い」と評価を行いました。

設問	該当	配点
バスや電車で一人で外出していますか	「できるし、している」「できるけどしていない」	1
日用品の買物をしていますか	「できるし、している」「できるけどしていない」	1
自分で食事の用意をしていますか	「できるし、している」「できるけどしていない」	1
請求書の支払をしていますか	「できるし、している」「できるけどしていない」	1
預貯金の出し入れをしていますか	「できるし、している」「できるけどしていない」	1

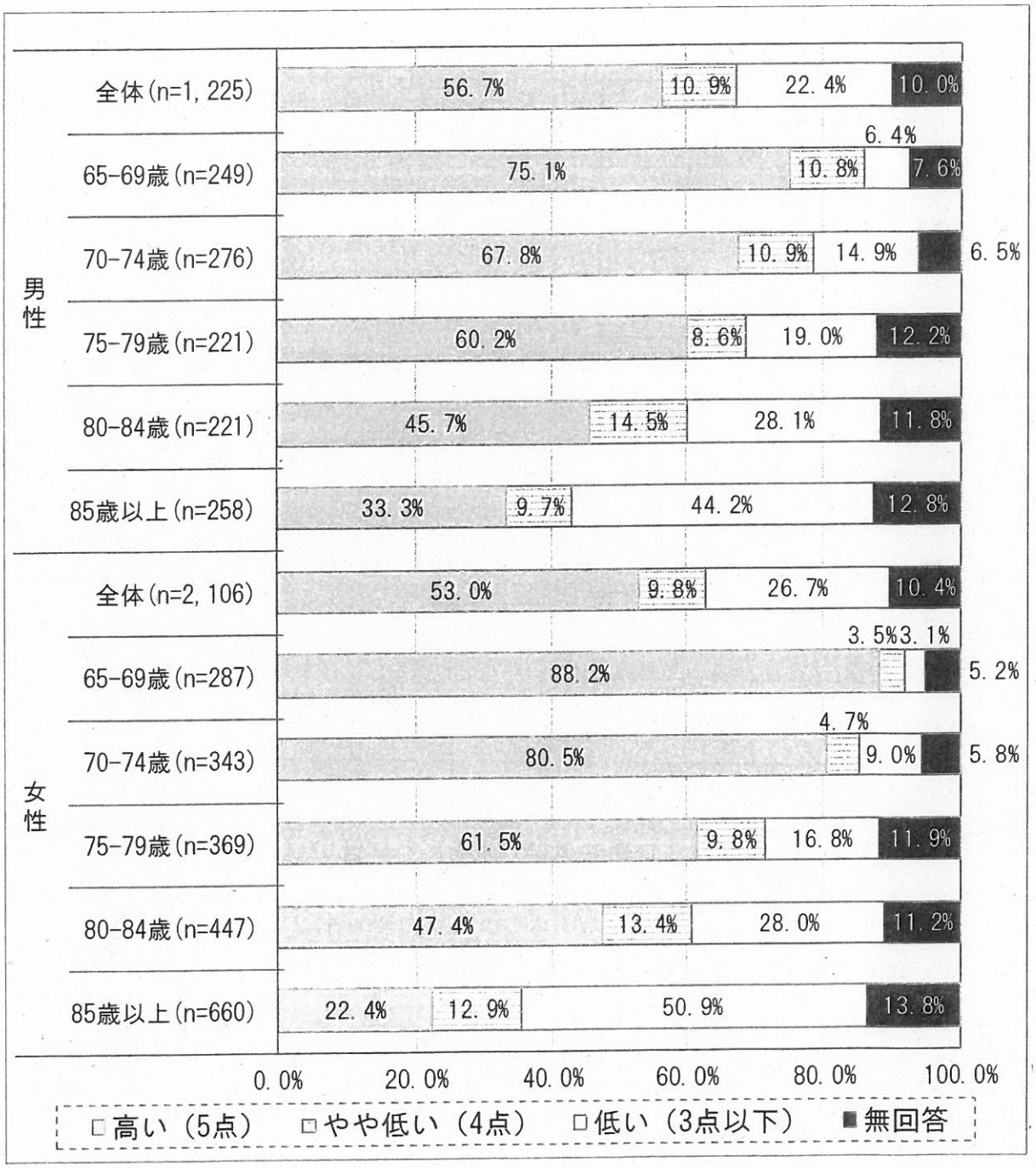
手段的自立度の評価結果をみると、４点以下の低下者の割合は全体では35.4%となっています。

認定・該当状況別にみると、要介護状態になるにつれて低下者の割合が増加しており、「要介護」では74.7%を占めています。



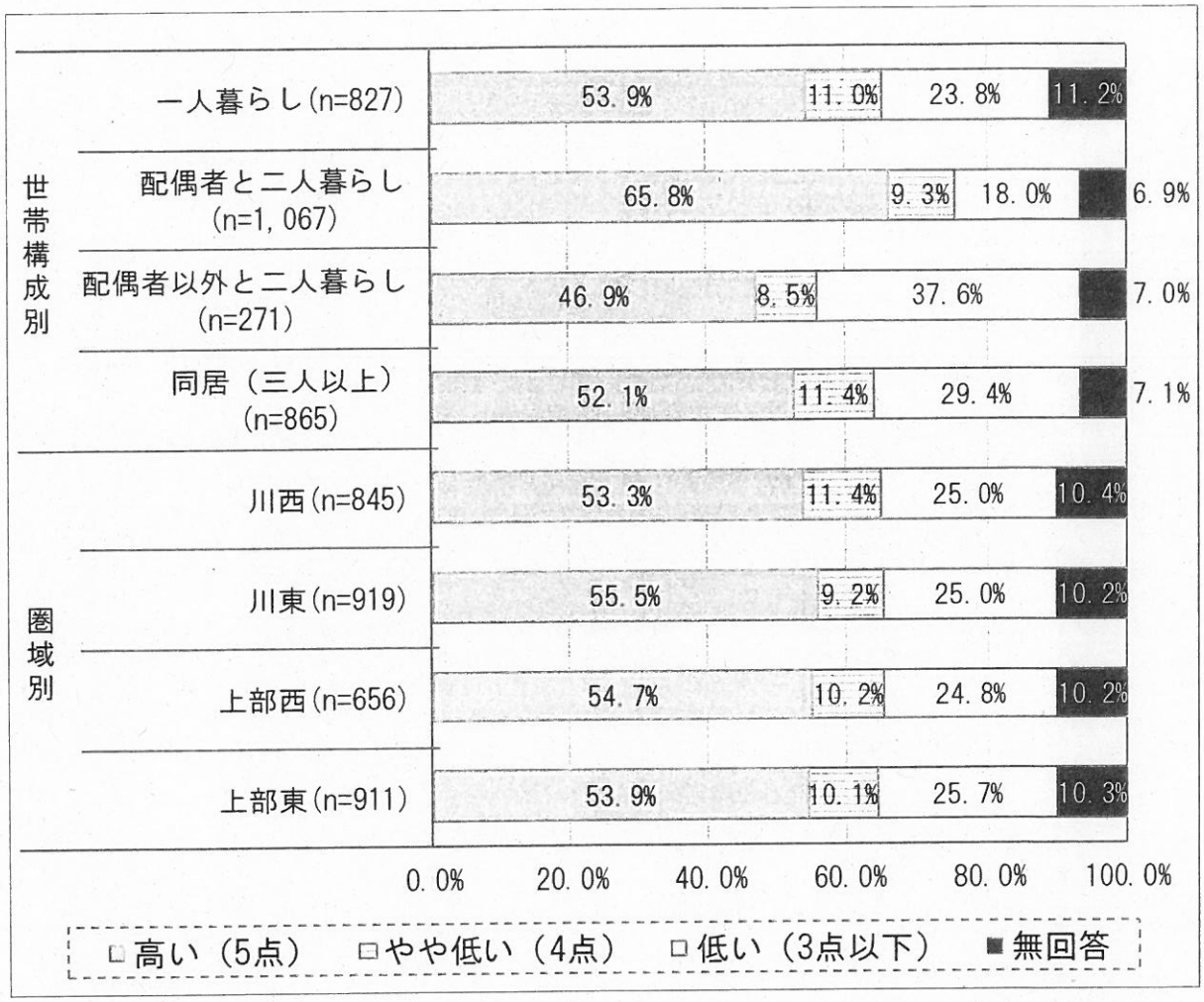
性別・年齢別に低下者の割合をみると、男性は33.3%、女性は36.5%となっており、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて低下者の割合が高くなっており、85歳以上で男性53.9%、女性63.8%と最も高くなっています。

また、85歳以下では女性より男性に低下者の割合が高くなっています。



世帯構成別に低下者の割合をみると、「配偶者以外と二人暮らし」（46.1%）が最も高く、次いで、「同居（三人以上）」（40.8%）、「一人暮らし」（34.8%）、「配偶者と二人暮らし」（27.3%）の順となっています。

圏域別にみると、川西圏域が 36.4%、川東圏域が 34.2%、上部西圏域が 35.0%、上部東圏域が 35.8%となっています。



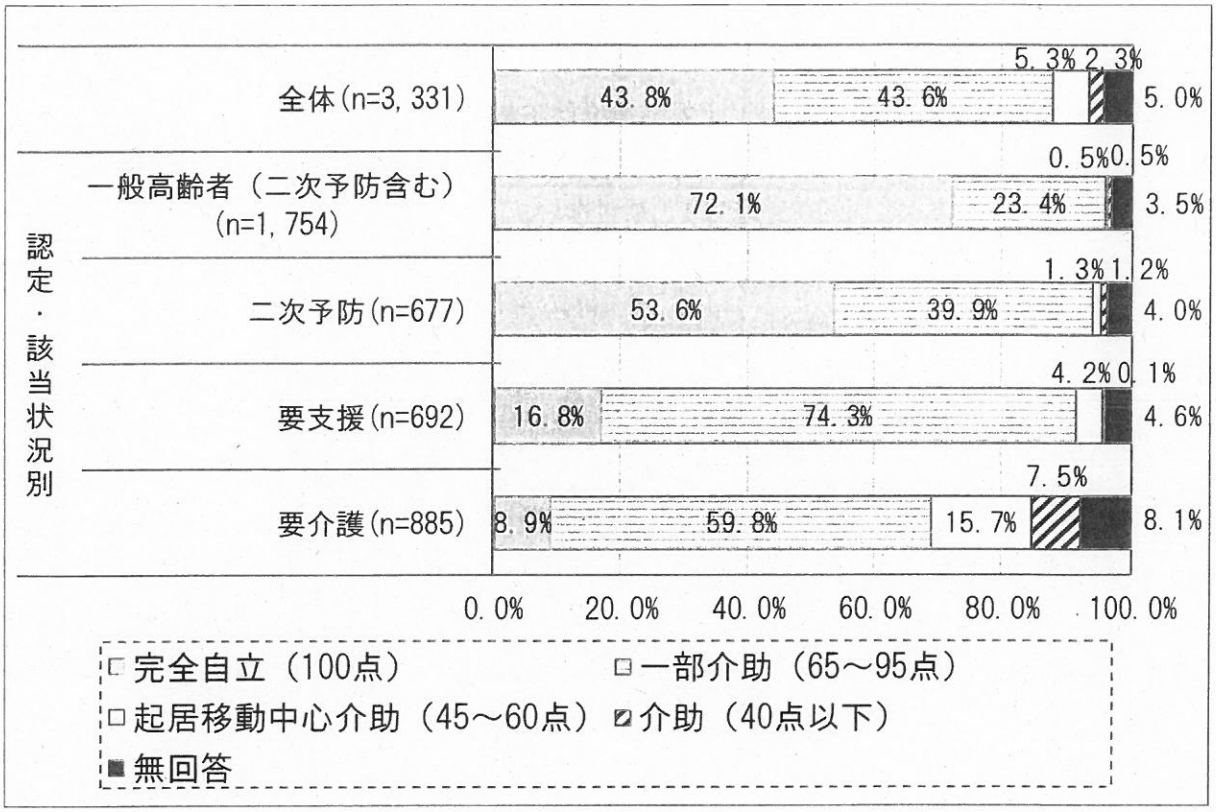
⑫日常生活自立度（ADL）について

日常生活自立度（ＡＤＬ）に関する設問が、食事、移動、整容、トイレ動作、入浴、歩行、階段昇降、着替え、排便、排尿の１０項目あり、各設問で自立を５～１５点とし、１０項目の合計が１００点満点となるよう評価を行いました。

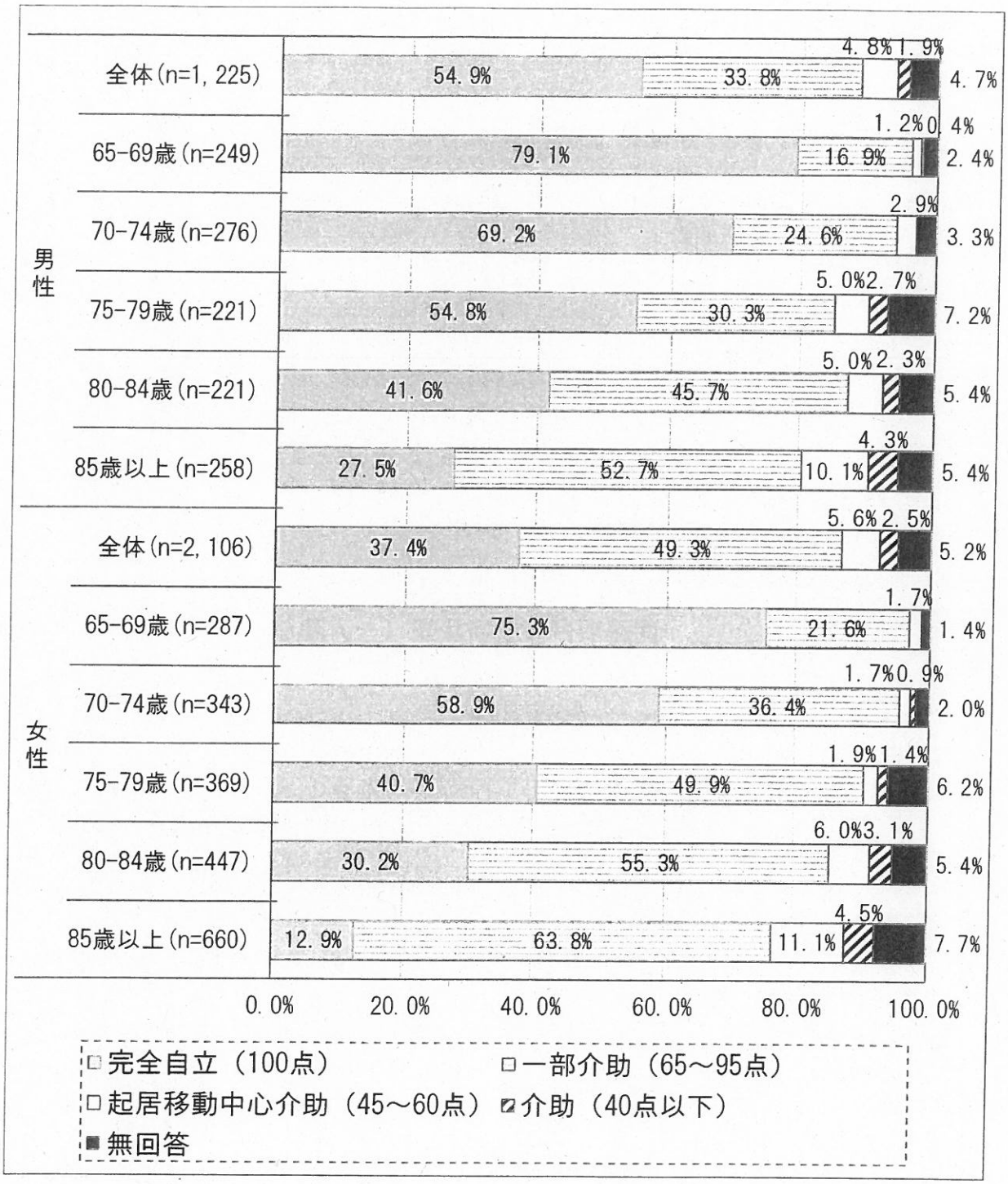
設問	選択肢	配点
①問６－６ 食事は自分で食べられますか	「１．できるし、している」 「２．一部介助があればできる」 「３．できない」	１０ ５ ０
②問６－７ 寝床に入るとき、何らかの介助を受けますか （※座っていることができますか）	「１．受けない」 「２．一部介助があればできる」 「３．全面的な介助が必要」 （※の回答が「できる」または「支えが必要」） （※の回答が「できない」）	１５ １０ ５ ０
③問６－９ 自分で洗面や歯磨きができますか	「１．できる」 「２．一部介助があればできる」または「３．できない」	５ ０
④問６－１０ 自分でトイレができますか	「１．できる」 「２．一部介助があればできる」 「３．できない」	１０ ５ ０
⑤問６－１１ 自分で入浴ができますか	「１．できる」 「２．一部介助があればできる」または「３．できない」	５ ０
⑥問６－１２ ５０ｍ以上歩けますか	「１．できる」 「２．一部介助があればできる」 「３．できない」	１５ １０ ０
⑦問６－１３ 階段を昇り降りできますか	「１．できる」 「２．介助があればできる」 「３．できない」	１０ ５ ０
⑧問６－１４ 自分で着替えができますか	「１．できる」 「２．介助があればできる」 「３．できない」	１０ ５ ０
⑨問６－１５ 大便の失敗がありますか	「１．ない」 「２．ときどきある」 「３．よくある」	１０ ５ ０
⑩問６－１６ 尿もれや尿失禁がありますか	「１．ない」 「２．ときどきある」 「３．よくある」	１０ ５ ０

日常生活動作の評価結果をみると、全体では「完全自立」43.8%、「一部介助」43.6%、「起居移動中心介助」5.3%、「介助」2.3%となっています。

認定・該当状況別にみると、要介護状態になるにつれて完全自立者が減少しており、「要介護」では8.9%となっています。

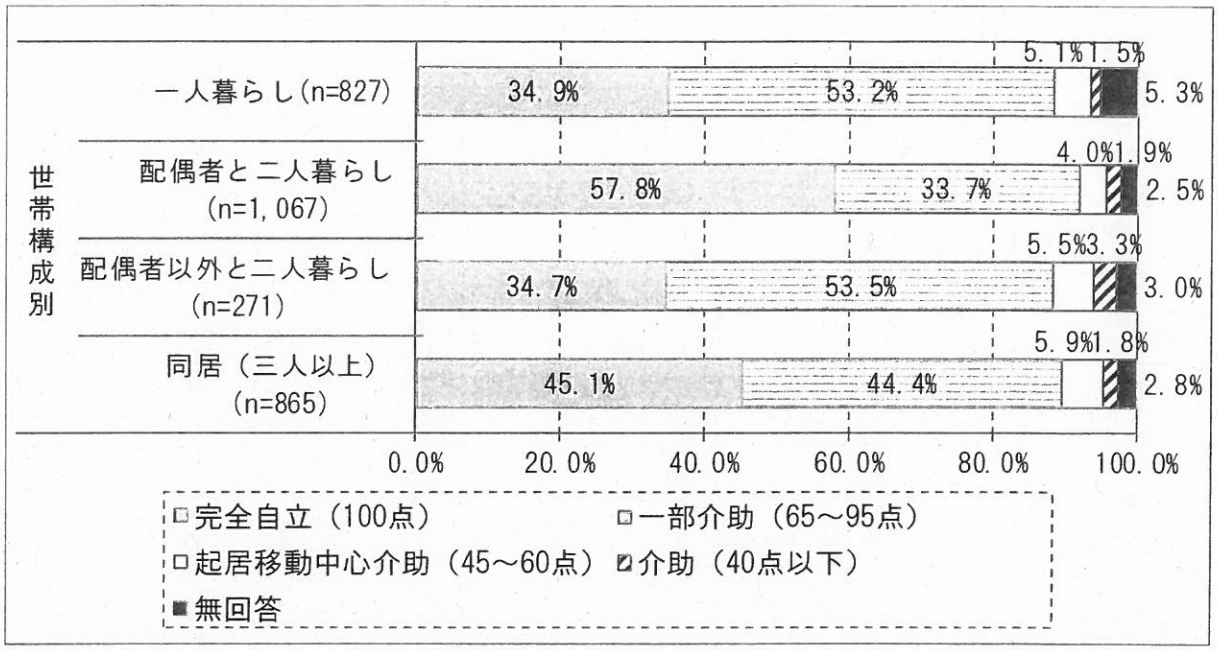


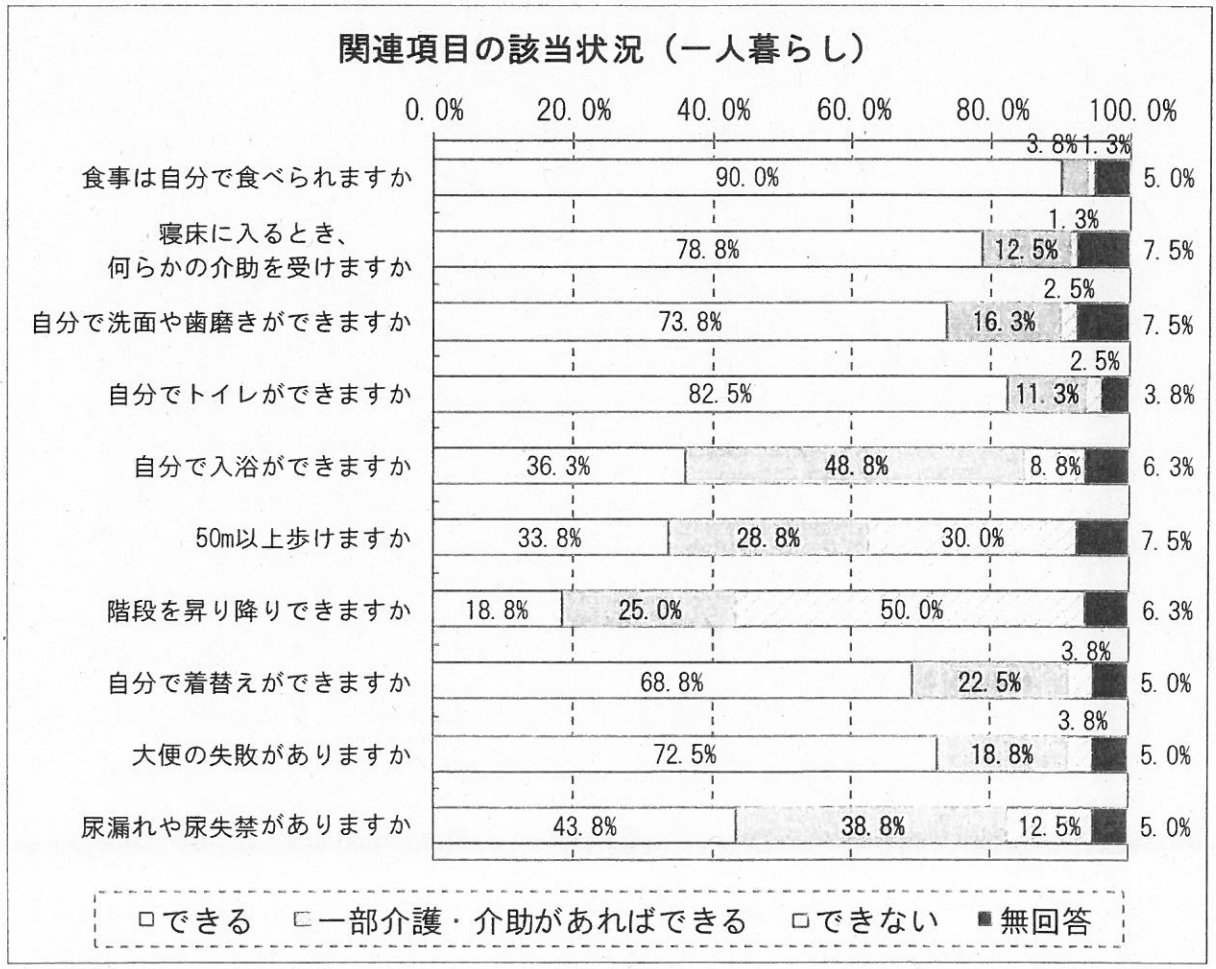
性別・年齢別に完全自立者の割合をみると、男性は54.9%、女性は37.4%となっています。また、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて完全自立者が減少しており、85歳以上では男性（27.5%）、女性（12.9%）と最も低くなっています。



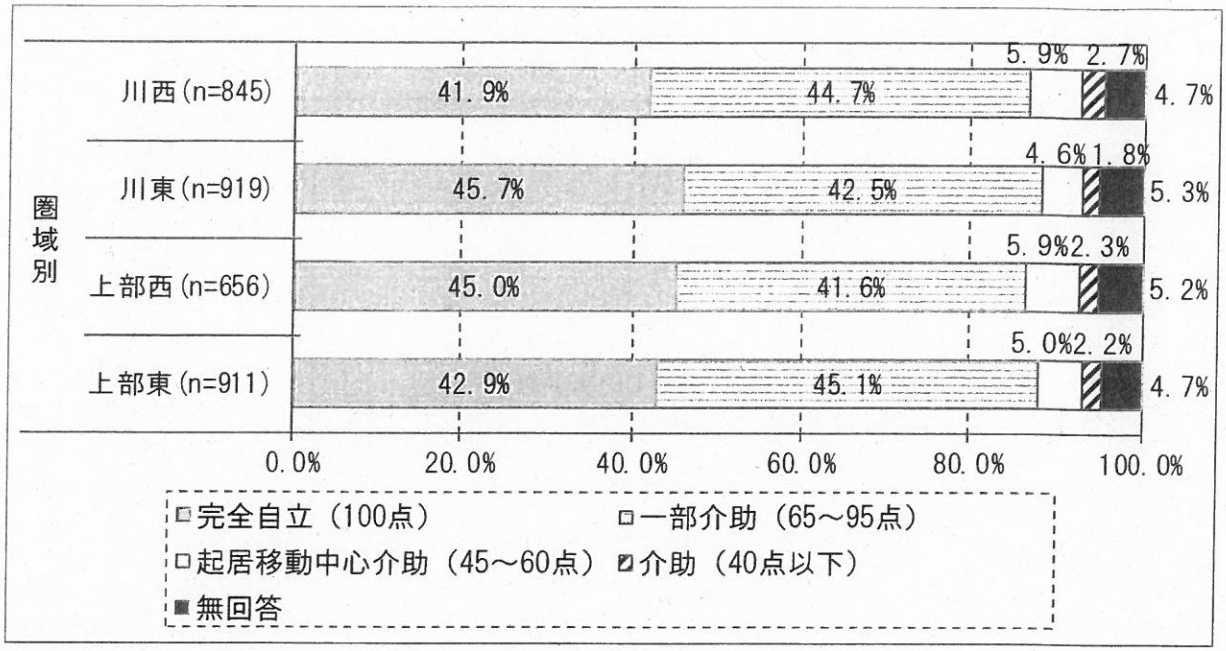
世帯構成別に完全自立者の割合をみると、「配偶者と二人暮らし」（57.8%）が最も高く、「配偶者以外と二人暮らし」（34.7%）が最も低くなっており、「配偶者と二人暮らし」以外では何らかの介護が必要な方が50%を超えています。

また、関連項目について一人暮らしの方の該当状況をみると、「階段の昇り降り」を「できない」と答えた方が50.0%を占めています。





圏域別に完全自立の該当率をみると、川西圏域が 41.9%、川東圏域が 45.7%、上部西圏域が 45.0%、上部東圏域が 42.9%となっており、川東圏域に完全自立の方が多く、一人暮らしの高齢者の方が多い川西圏域に介助が必要な方が多くなっていますが、いずれの圏域も 50%前後となっています。



(6)参考資料

基本チェックリストとは

基本チェックリストとは、65歳以上の方を対象に介護の原因となりやすい生活機能低下の危険性がないかどうか、厚生労働省のガイドラインに基づいた運動、口腔、栄養、物忘れ、うつ症状、閉じこもり等の全25項目について「はい」「いいえ」で記入して頂く質問表です。

No	質問項目	回答		ニーズ調査設問
1	バスや電車で1人で外出していますか	0. はい	1. いいえ	問6－1
2	日用品の買い物をしていますか	0. はい	1. いいえ	問6－2
3	預貯金の出し入れをしていますか	0. はい	1. いいえ	問6－5
4	友人の家を訪ねていますか	0. はい	1. いいえ	問7－5
5	家族や友人の相談にのっていますか	0. はい	1. いいえ	問7－6
6	階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか	0. はい	1. いいえ	問2－1
7	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	0. はい	1. いいえ	問2－2
8	15分間位続けて歩いていますか	0. はい	1. いいえ	問2－3
9	この1年間に転んだことはありますか	1. はい	0. いいえ	問3－1
10	転倒に対する不安は大きいですか	1. はい	0. いいえ	問3－2
11	6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少はありましたか	1. はい	0. いいえ	問4－1
12	身長（　cm）　体重（　kg）（＊BMI18.5未満なら該当） ＊BMI（＝体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)）	1. はい	0. いいえ	問4－2
13	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい	0. いいえ	問4－3
14	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい	0. いいえ	問4－4
15	口の渇きが気になりますか	1. はい	0. いいえ	問4－5
16	週に1回以上は外出していますか	0. はい	1. いいえ	問2－5
17	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. はい	0. いいえ	問2－6
18	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか	1. はい	0. いいえ	問5－1
19	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0. はい	1. いいえ	問5－2
20	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい	0. いいえ	問5－3
21	(ここ2週間)毎日の生活に充実感がない	1. はい	0. いいえ	問8－8
22	(ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1. はい	0. いいえ	問8－9
23	(ここ2週間)以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	1. はい	0. いいえ	問8－10
24	(ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない	1. はい	0. いいえ	問8－11
25	(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする	1. はい	0. いいえ	問8－12

＜ 判　定 ＞

- **No.1～20：生活機能全般について**
  1～20項目のうち、10項目に該当
- **No.11、12：栄養が不足していないか**
  栄養改善2項目のうち、すべてに該当
- **No.16、17：閉じこもりの状態でないか**
  閉じこもり2項目のうち、No.16に該当
- **No.21～25：「うつ」の可能性がないか**
  うつ予防の5項目のうち、2項目以上に該当
- **No.6～10：運動器機能の低下がないか**
  運動5項目のうち、3項目以上に該当
- **No.13～15：口腔機能の低下がないか**
  口腔3項目のうち2項目に該当
- **No.18～20：認知能力の低下がないか**
  認知能力3項目のうち、いずれかに該当